

(19)日本国特許庁(JP)

## (12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7092797号

(P7092797)

(45)発行日 令和4年6月28日(2022.6.28)

(24)登録日 令和4年6月20日(2022.6.20)

(51)国際特許分類

F I

H 0 4 W	28/06	(2009.01)	H 0 4 W	28/06	1 1 0
H 0 4 W	72/04	(2009.01)	H 0 4 W	72/04	1 3 6
H 0 4 W	56/00	(2009.01)	H 0 4 W	56/00	1 3 0

請求項の数 4 (全34頁)

(21)出願番号	特願2019-559475(P2019-559475)	(73)特許権者	392026693 株式会社NTTドコモ 東京都千代田区永田町二丁目1番1号
(86)(22)出願日	平成29年12月13日(2017.12.13)	(74)代理人	100121083 弁理士 青木 宏義
(86)国際出願番号	PCT/JP2017/044793	(74)代理人	100138391 弁理士 天田 昌行
(87)国際公開番号	WO2019/116477	(74)代理人	100158528 弁理士 守屋 芳隆
(87)国際公開日	令和1年6月20日(2019.6.20)	(72)発明者	原田 浩樹 東京都千代田区永田町二丁目1番1号 山王パークタワー 株式会社NTTドコモ 知的財産部内
審査請求日	令和2年12月9日(2020.12.9)	審査官	伊東 和重

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 端末、無線通信方法及びシステム

## (57)【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

システム情報ブロックの受信のためのコントロールリソースセット(CORESET)の指示のための情報要素を含むブロードキャストチャネルを含む同期信号ブロックを検出する受信部と、

前記情報要素に対し、条件が成立するか否かによって異なる解釈をする制御部と、を有し、前記条件が成立する場合、前記情報要素は、サーチをスキップすべき同期ラストの範囲を示す、端末。

## 【請求項2】

前記条件は、前記同期信号ブロックに関連付けられた前記システム情報ブロックの受信のためのCORESETが存在しないことと、上位レイヤパラメータが特定値を示すことと、の少なくとも1つである、請求項1に記載の端末。

## 【請求項3】

システム情報ブロックの受信のためのコントロールリソースセット(CORESET)の指示のための情報要素を含むブロードキャストチャネルを含む同期信号ブロックを検出するステップと、

前記情報要素に対し、条件が成立するか否かによって異なる解釈をするステップと、を有し、

前記条件が成立する場合、前記情報要素は、サーチをスキップすべき同期ラストの範囲を示す、端末の無線通信方法。

## 【請求項 4】

端末及び基地局を有するシステムであって、

前記端末は、

システム情報ブロックの受信のためのコントロールリソースセット (CORESET) の指示のための情報要素を含むブロードキャストチャネルを含む同期信号ブロックを検出する受信部と、

前記情報要素に対し、条件が成立するか否かによって異なる解釈をする制御部と、を有し、前記基地局は、前記同期信号ブロックを送信し、

前記条件が成立する場合、前記情報要素は、サーチをスキップすべき同期ラスタの範囲を示す、システム。

10

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、次世代移動通信システムにおけるユーザ端末及び無線通信方法に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

UMTS (Universal Mobile Telecommunications System) ネットワークにおいて、更なる高速データレート、低遅延などを目的としてロングタームエボリューション (LTE: Long Term Evolution) が仕様化された (非特許文献 1)。また、LTE (LTE Rel. 8、9) の更なる大容量、高度化などを目的として、LTE-A (LTE アドバンスド、LTE Rel. 10、11、12、13) が仕様化された。

20

## 【0003】

LTE の後継システム (例えば、FRA (Future Radio Access)、5G (5th generation mobile communication system)、5G+ (plus)、NR (New Radio)、NX (New radio access)、FX (Future generation radio access)、LTE Rel. 14 又は 15 以降などともいう) も検討されている。

## 【0004】

既存の LTE システム (例えば、LTE Rel. 8 - 13) において、ユーザ端末 (UE: User Equipment) は、初期接続 (initial access) 手順 (セルサーチ等とも呼ばれる) によって同期信号 (PSS (Primary Synchronization Signal) 及び / 又は SSS (Secondary Synchronization Signal)) を検出し、ネットワーク (例えば、無線基地局 (eNB (eNode B))) との同期をとるとともに、接続するセルを識別する (例えば、セル ID (Identifier) によって識別する)。

30

## 【0005】

また、UE は、セルサーチ後に、ブロードキャストチャネル (PBCH: Physical Broadcast Channel) で送信されるマスタ情報ブロック (MIB: Master Information Block)、下りリンク (DL) 共有チャネル (PDSCH: Physical Downlink Shared Channel) で送信されるシステム情報ブロック (SIB: System Information Block) などを受信して、ネットワークとの通信のための設定情報 (ブロードキャスト情報、システム情報などと呼ばれてもよい) を取得する。

40

## 【先行技術文献】

## 【非特許文献】

## 【0006】

【文献】3GPP TS 36.300 “Evolved Universal Terrestrial Radio Access (E-UTRA) and Evolved Universal Terrestrial Radio Access Network (E-UTRAN); Overall Description; Stage 2”

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0007】

将来の無線通信システム (例えば、NR 又は 5G) においては、同期信号及びブロードキ

50

キャストチャンネルを含むリソースユニットを同期信号ブロックと定義し、当該SSブロックに基づいて初期接続を行うことが検討されている。同期信号は、PSS及び/又はSSS、又は、NR-PSS及び/又はNR-SSS等とも呼ぶ。ブロードキャストチャンネルは、PBCH又はNR-PBCH等とも呼ぶ。同期信号ブロックは、SSブロック(Synchronization Signal block:SSB)、又はSS/PBCHブロック等とも呼ぶ。

【0008】

SSブロックを利用した初期接続では、SSブロック内のブロードキャストチャンネルによって、できるだけ多くの情報を通知することが好ましい。しかしながら、ブロードキャストチャンネルの情報量は限られている。

【0009】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、将来の無線通信システムにおいて、同期信号ブロック内のブロードキャストチャンネルを有効に利用するユーザ端末及び無線通信方法を提供することを目的の1つとする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明の一態様に係る端末は、システム情報ブロックの受信のためのコントロールリソースセット(CORESET)の指示のための情報要素を含むブロードキャストチャンネルを含む同期信号ブロックを検出する受信部と、前記情報要素に対し、条件が成立するか否かによって異なる解釈をする制御部と、を有し、前記条件が成立する場合、前記情報要素は、サーチをスキップすべき同期ラスタの範囲を示す。

【発明の効果】

【0011】

本発明によれば、将来の無線通信システムにおいて、同期信号ブロック内のブロードキャストチャンネルを有効に利用できる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】図1A及び図1Bは、SSバーストセットの一例を示す図である。

【図2】MIBコンテンツの一例を示す図である。

【図3】Ssb-subcarrierOffsetの一例を示す図である。

【図4】初期アクセスの動作の一例を示すフローチャートである。

【図5】初期アクセス時に検出されるSSBのケースの一例を示す図である。

【図6】第1の態様に係る初期アクセスの動作の一例を示すフローチャートである。

【図7】本発明の一実施形態に係る無線通信システムの概略構成の一例を示す図である。

【図8】本発明の一実施形態に係る無線基地局の全体構成の一例を示す図である。

【図9】本発明の一実施形態に係る無線基地局の機能構成の一例を示す図である。

【図10】本発明の一実施形態に係るユーザ端末の全体構成の一例を示す図である。

【図11】本発明の一実施形態に係るユーザ端末の機能構成の一例を示す図である。

【図12】本発明の一実施形態に係る無線基地局及びユーザ端末のハードウェア構成の一例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0013】

将来の無線通信システム(例えば、LTE Rel.14以降、5G又はNRなど)では、同期信号(SS、PSS及び/又はSSS、又は、NR-PSS及び/又はNR-SSS等をともし)及びブロードキャストチャンネル(ブロードキャスト信号、PBCH、又は、NR-PBCH等をともし)を含む信号ブロック(SS/PBCHブロック、SS/PBCHブロック等ともいう)を定義することが検討されている。一以上の信号ブロックの集合は、信号バースト(SS/PBCHバースト又はSSバースト)とも呼ばれる。当該信号バースト内の複数の信号ブロックは、異なる時間に異なるビームで送信される(ビームスイープ(beam sweep)等ともいう)。

【0014】

10

20

30

40

50

SS/PBCHブロックは、一以上のシンボル（例えば、OFDMシンボル）で構成される。具体的には、SS/PBCHブロックは、連続する複数のシンボルで構成されてもよい。当該SS/PBCHブロック内では、PSS、SSS及びNR-PBCHがそれぞれ異なる一以上のシンボルに配置されてもよい。例えば、SS/PBCHブロックは、1シンボルのPSS、1シンボルのSSS、2又は3シンボルのPBCHを含む4又は5シンボルでSS/PBCHブロックを構成することも検討されている。

【0015】

1つ又は複数のSS/PBCHブロックの集合は、SS/PBCHバーストと呼ばれてもよい。SS/PBCHバーストは、周波数及び/又は時間リソースが連続するSS/PBCHブロックで構成されてもよいし、周波数及び/又は時間リソースが非連続のSS/PBCHブロックで構成されてもよい。SS/PBCHバーストは、所定の周期（SS/PBCHバースト周期と呼ばれてもよい）で設定されてもよいし、又は、非周期で設定されてもよい。

10

【0016】

また、1つ又は複数のSS/PBCHバーストは、SS/PBCHバーストセット（SS/PBCHバーストシリーズ）と呼ばれてもよい。SS/PBCHバーストセットは周期的に設定される。ユーザ端末は、SS/PBCHバーストセットが周期的に（SS/PBCHバーストセット周期（SS burst set periodicity）で）送信されると想定して受信処理を制御してもよい。

【0017】

図1は、SSバーストセットの一例を示す図である。図1Aでは、ビームスイーピングの一例が示される。図1A及び図1Bに示すように、無線基地局（例えば、gNB）は、ビームの指向性を時間的に異ならせて（ビームスイーピング）、異なるビームを用いて異なるSSブロックを送信してもよい。なお、図1A及び図1Bでは、マルチビームを用いた例が示されるが、シングルビームを用いてSSブロックを送信することも可能である。

20

【0018】

図1Bに示すように、SSバーストは1つ以上のSSブロックで構成され、SSバーストセットは1つ以上のSSバーストで構成される。例えば、図1Bでは、SSバーストが8SSブロック#0～#7で構成されるものとするが、これに限られない。SSブロック#0～#7は、それぞれ異なるビーム#0～#7（図1A）で送信されてもよい。

30

【0019】

図1Bに示すように、SSブロック#0～#7を含むSSバーストセットは、所定期間（例えば、5ms以下、SSバーストセット期間等ともいう）を超えないように送信されてもよい。また、SSバーストセットは、所定周期（例えば、5、10、20、40、80又は160ms、SSバーストセット周期等ともいう）で繰り返されてもよい。

【0020】

なお、図1Bでは、SSブロック#1及び#2、#3及び#4、#5及び#6の間にそれぞれ所定の時間間隔があるが、当該時間間隔はなくともよく、他のSSブロック間（例えば、SSブロック#2及び#3、#5及び#6の間など）に設けられてもよい。当該時間間隔には、例えば、DL制御チャネル（PDCCH、NR-PDCCH又は下りリンク制御情報（DCI：Downlink Control Information）等ともいう）が送信されてもよいし、及び/又は、UL制御チャネル（PUCCH：Physical Uplink Control Channel）がユーザ端末から送信されてもよい。例えば、各SSブロックが4シンボルで構成される場合、14シンボルのスロット内には、2シンボルのPDCCHと2つのSSブロック、2シンボル分のPUCCH及びガード時間が含まれてもよい。

40

【0021】

また、SSブロックに含まれるPBCH及び/又は、PBCH用のDMRS（DeModulation Reference Signal）（PBCH DMRS）を利用してSSブロックのインデックス（SSブロックインデックス）が通知される。UEは、PBCH（又は、PBCH DMRS）に基づいて、受信したSSブロックのSSブロックインデックスを把握すること

50

ができる。

【 0 0 2 2 】

初期アクセス時にUEによって読まれるMSI (Minimum System Information)のうちMIB (Master Information Block)は、PBCHによって運ばれる。その残りのMSIがRMSI (Remaining Minimum System Information)であり、LTEにおけるSIB (System Information Block) 1、SIB 2に相当する。また、MIBによって示されるPDCHによって、RMSIがスケジュールされる。

【 0 0 2 3 】

図2に示すように、MIBコンテンツ(情報要素)と、各MIBコンテンツのペイロードサイズの一例が検討されている。

10

【 0 0 2 4 】

例えば、80ms毎に上位レイヤから提供されるMIBコンテンツは、SystemFrameNumber(6 MSBs of SystemFrameNumber)、subCarrierSpacingCommon、Ssb-subcarrierOffset、Dmrs-TypeA-Position、pdccchConfigSIB1、cellBarred、intraFreqReselection、spareである。また、例えば、物理レイヤに基づいて生成されるMIBコンテンツは、4 LSBs of SystemFrameNumber、Ssb-IndexExplicit、Half-frame-indexである。

【 0 0 2 5 】

一部のMIBコンテンツは、第1周波数帯と、第1周波数帯よりも高い第2周波数帯と、のいずれを用いるかによって、解釈が異なる。例えば、第1周波数帯は、6GHzよりも低い周波数帯(sub-6)であってもよく、第2周波数帯は、6GHzよりも高い周波数帯(above-6)であってもよい。また、第1周波数帯はFR (Frequency Range) 1と呼ばれてもよい。また、第2周波数帯は、24GHzよりも高い周波数帯であっても良く、FR2、above-24、ミリ波(millimeter wave)などと呼ばれてもよい。

20

【 0 0 2 6 】

SystemFrameNumberは、システムフレーム番号(SFN)の上位6ビットを通知する。subCarrierSpacingCommonは、RMSI受信のためのサブキャリア間隔(SCS、ニューメロロジー)を通知する。Ssb-subcarrierOffsetは、RMSI受信のためのPRB (Physical Resource Block)グリッドオフセットを通知する。Dmrs-TypeA-Positionは、PDCH用のDMRSのシンボル位置がスロット内の3番目のシンボルであるか4番目のシンボルであるかを通知する。pdccchConfigSIB1は、RMSI受信のためのPDCH(又はPDCHを含むCORESET (Control Resource Set)、RMSI CORESET)のパラメータセット(PDCHパラメータセット)を通知する。cellBarredは、このセルがキャンボン(camp on、在圏)不可であるか否か(Barred/notBarred)を通知する。intraFreqReselectionは、同一周波数(キャリア帯域)内にキャンボン可のセルがあるか否か(allowed/not allowed)を通知する。spareは、スペアビットであり、特定の目的に使われる可能性がある。

30

【 0 0 2 7 】

4 LSBs of SystemFrameNumberは、SFNの下位4ビットを通知する。

40

【 0 0 2 8 】

above-6において、Ssb-IndexExplicitは、SSBインデックスの上位3ビットを通知する。sub-6において、Ssb-IndexExplicitのうち1ビットは、Ssb-subcarrierOffsetと合わせて用いられる。

【 0 0 2 9 】

SSBインデックスの最大数が64である場合、6ビットを必要とする場合がある。above-6においては、SSBインデックスの数が8より多い場合があり、sub-6においては、SSBインデックスの数が8より多い場合がない。sub-6において、Ssb-IndexExplicitの特定の1ビットは、Ssb-subcarrierOffsetの4ビットと合わせ、Ssb-subcarrierOffsetを5ビットとするために使われる。下位3ビットは、PBCH用のDMR

50

S を用いて暗示的に通知されてもよい。

【 0 0 3 0 】

Half-frame-indexは、このSSBが無線フレーム(10ms)の前半の5msハーフフレームであるか後半の5msハーフフレームであるかを通知する。CRCは、以上の情報に基づいて生成される巡回冗長検査の符号である。

【 0 0 3 1 】

例えば、PBCH全体は、上位レイヤ分の24ビットと、物理レイヤ分の8ビットと、CRCの24ビットと、を合わせて、56ビットである。

【 0 0 3 2 】

このように各MIBコンテンツに対し、必要なビット数とコードポイント数が決められる。例えば、Ssb-subcarrierOffsetは、キャリアの中心周波数に基づくPRB(データのためのPRB)とSSBのPRBとの間のオフセットをサブキャリア数によって表す。例えばSSBとRMSIのサブキャリア間隔が同一の場合、1PRBは12サブキャリアであることから、Ssb-subcarrierOffsetは、4ビットのうち12コードポイント(0-11の値)を用いる。

10

【 0 0 3 3 】

しかしながら、一部のMIBコンテンツにおいて、ビット及び/又はコードポイントが余る場合がある。コードポイントは、ビットによって表される値である。

【 0 0 3 4 】

例えば、sub-6において、Ssb-IndexExplicitの1ビットは、Ssb-subcarrierOffsetと合わせて用いられ、残りの2ビットが余る。

20

【 0 0 3 5 】

また、例えば、above-6において、Ssb-subcarrierOffsetは、4ビットの16コードポイントのうち、12コードポイント(0~11の値)までを使うため、少なくとも4コードポイントが使われない(reserved)。sub-6において、Ssb-subcarrierOffsetは、Ssb-IndexExplicitの1ビットと合わせて、5ビットの32コードポイントのうち、24コードポイント(0~23の値)までを使うため、少なくとも8コードポイントが使われない。

【 0 0 3 6 】

また、例えば、pdcchConfigSIB1は、SSBのSCSとsubCarrierSpacingCommonとの組み合わせによって、サポートされるPDCCHパラメータセットの数が異なる。

30

【 0 0 3 7 】

図3は、Ssb-subcarrierOffsetの一例を示す図である。

【 0 0 3 8 】

キャリアの中心を配置できる周波数位置は、チャンネルラスタと呼ばれる。NRにおいては、例えば、最小のSCSの間隔で配置される。データのためのPRB(データPRB)は、チャンネルラスタをPRB境界として配置される。

【 0 0 3 9 】

初期アクセス時にSSBを探す周波数位置は、SS(Synchronization Signal)ラスタ(又は同期ラスタ(sync raster))と呼ばれる。仕様によって少なくとも1つのSSラスタの周波数位置が定義される。SSBのためのPRB(SSB PRB)は、SSラスタをPRB境界として配置される。チャンネルラスタに基づいて配置されたキャリアの帯域内には、少なくとも1つのSSラスタが配置される。

40

【 0 0 4 0 】

例えば、2.4GHz~24.5GHzの範囲において、チャンネルラスタ間隔は15kHzであり、SSラスタ間隔は1.44MHzである。また、例えば、24.25GHz~100GHzの範囲において、チャンネルラスタ間隔は60kHzであり、SSラスタ間隔は17.28MHzである。

【 0 0 4 1 】

UEによるSSBのサーチの回数を抑えるため、SSラスタ間隔は、チャンネルラスタ間隔

50

よりも広い。SSBをSSラスタ上に置くと、データPRB境界と、SSB PRB境界が一致しない場合がある。

【0042】

SSB用のSCS (SSB SCS) が、データ用のSCS (データSCS) と等しい場合、SSB PRB境界に対するデータPRB境界のずれの範囲は、0 ~ 11サブキャリアである。SSB SCSが、データSCSと異なり、データSCSがSCS SCSよりも大きい場合、SSB PRB境界に対するデータPRB境界のずれの範囲は、0 ~ 23サブキャリアである。Ssb-subcarrierOffsetは、このずれを表す。

【0043】

UEは、初期アクセス時、SSラスタ上においてSSBをサーチする。UEは、初期アクセスを行うためには、ランダムアクセスチャネル (RACH) に関する情報を含むRMSI (又はSIB) を読むことが必要である。したがって、スタンドアローン (Standalone: SA) 用のNRセルでは、初期アクセスのためのSSBに対し、それに紐づくRMSIが送信される。

10

【0044】

一方、初期アクセスに用いられないSSB、例えば、セカンダリセル (SCell) だけに用いられるセル (例えば、非スタンドアローン (Non-Standalone: NSA) 用のNRセル、NSA用セル) のSSBに対し、それに紐づくRMSIが存在しない (送信されない) 場合がある。NSA用セルにおけるSSBにおいて、cellBarredはBarredであり、そのキャリア内のセルが全てNSA用セルであればintraFreqReselectionはnot allowedである。

20

【0045】

UEの初期アクセスの動作の一例として、図4に示す動作が考えられる。

【0046】

UEは、初期アクセスを開始すると (S110)、SSBをサーチする周波数位置を、予め定義された次のSSラスタへ移動させる (S120)。その後、UEは、SSBを検出したか否かを判定する (S130)。

【0047】

SSBが検出されない場合 (S130: not detected)、UEは、処理をS120へ移行させる (次のSSラスタにおいてSSBをサーチする)。

30

【0048】

SSBが検出された場合 (S130: Yes)、UEは、PBCHのcellBarredがbarredであるか否かを判定する (S140)。

【0049】

cellBarredがbarredである場合 (S140: barred)、UEは、PBCHのintraFreqReselectionがallowedであるか否かを判定する (S210)。

【0050】

intraFreqReselectionがallowedである場合 (S210: allowed)、UEは、処理をS130へ移行させる (同じキャリア帯域で検出された別のSSBを確認する)。

【0051】

intraFreqReselectionがnot allowedである場合 (S210: not allowed)、UEは、処理をS120へ移行させる (別のキャリア帯域においてSSBをサーチする)。

40

【0052】

cellBarredがnot barredである場合 (S140: not barred)、UEは、SSBに紐づけられたRMSI内のSIB1を読む (S150)。その後、UEは、セルにアクセス可能であるか否かを判定する (S160)。

【0053】

アクセス不可能である場合、例えば、PLMN (Public Land Mobile Network) - IDが利用可能でない場合 (S160: No)、UEは、処理をS120へ移行させる。

【0054】

50

アクセス可能である場合 ( S 1 6 0 : Yes )、UE は、他の R M S I を読み、ランダムアクセスを行い ( S 1 7 0 )、R R C 接続を確立し ( S 1 8 0 )、このフローを終了する。

【 0 0 5 5 】

この動作によれば、UE は、仕様に予め定義された複数の S S ラスタを順次サーチすることによって、アクセス可能な S S B を検出し、その S S B に紐づく R M S I に基づいてランダムアクセスを行うことができる。

【 0 0 5 6 】

初期アクセス時に S S ラスタ上において見つかる S S B ( キャリア ) は、図 5 に示すケース 1 ~ 4 に分類できる。

【 0 0 5 7 】

ケース 1 : 或るセルの S S B において、cellBarred が notBarred であり、intraFreqReselection が allowed であり、当該 S S B に紐づく R M S I が存在し、当該セルにアクセス可能である場合、UE は、当該セル ( キャリア ) にアクセスする。

【 0 0 5 8 】

ケース 2 : 或るセルの S S B において、cellBarred が notBarred であり、intraFreqReselection が allowed であり、当該 S S B に紐づく R M S I が存在し、当該セルにアクセス不可能である場合、UE は、次の S S ラスタをサーチする。アクセス不可能である場合は、例えば、P L M N - I D が利用可能な P L M N - I D でない場合である。

【 0 0 5 9 】

ケース 3 : 或るセルの S S B において、cellBarred が Barred であり、intraFreqReselection が not allowed であり、当該 S S B に紐づく R M S I が存在せず、当該セルにアクセス不可能である場合、UE は、次の S S ラスタをサーチする。

【 0 0 6 0 】

ケース 4 : 或るセルの S S B において、cellBarred が Barred であり、intraFreqReselection が not allowed であり、当該 S S B に紐づく R M S I ( Automatic Neighbor Relation ( A N R ) 用 ) が存在し、当該セルにアクセス不可能である場合、UE は、次の S S ラスタをサーチする。A N R は、基地局が周辺セルの情報を UE から受信し、その情報に基づいて周辺セルリストを自動的に更新する。A N R は、自己組織化ネットワーク ( self-organizing network : S O N ) と同様である。A N R をサポートするネットワークは、N S A 用セルであっても、R M S I ( S I B ) を送り、A N R をサポートする UE は、その R M S I を読む。

【 0 0 6 1 】

ケース 4 のように、Barred 及び not allowed のセルであっても R M S I を送信する場合がある。よって、受信された S S B に紐づく R M S I がいないことを UE へ通知することが必要になる場合がある。受信された S S B に紐づく R M S I がいない場合、UE は、A N R をサポートしていても、R M S I を読む必要がない。

【 0 0 6 2 】

受信された S S B に紐づく R M S I が存在しないことを示す通知方法として、次の 2 つの通知方法が考えられる。

【 0 0 6 3 】

通知方法 1 : 8 ビットの pdccchConfigSIB1 のうち、使われていないコードポイントの 1 つを用いて、R M S I が存在しないことを示す。

【 0 0 6 4 】

通知方法 2 : Ssb-subcarrierOffset の使われていない ( reserved ) コードポイント ( 値 ) を用いて、R M S I が存在しないことを示す。R M S I が存在しない場合、pdccchConfigSIB1 は、UE がセルを定義する S S B を探すべき次の S S ラスタ ( 又は同期ラスタ ( sync raster ) ) を通知するために用いられる。

【 0 0 6 5 】

もし通知方法 1 を用いる場合、UE は次に S S B を探すべき S S ラスタの情報を取得することができない。一方通知方法 2 を用いる場合、ケース 3 のように R M S I が存在しない

10

20

30

40

50

場合にはpdccchConfigSIB1を用いて次にSSBを探すべきSSラスタの情報を取得することができるが、ケース2や4の場合にはそのような情報を取得することができない。

【0066】

また、above-6において、SSBインデックスの最大数が64である場合、6ビットを必要とし、Ssb-IndexExplicitの3ビットが必要となる。しかしながら、SSBインデックスの数が64よりも少ない場合、Ssb-IndexExplicitのビットが使われない場合がある。例えば、above-6において、SSBインデックスの数が8である場合（SSBインデックスが#0～#7である場合）、Ssb-IndexExplicitの3ビットは常に0になり、有効に使われない。

【0067】

また、NSA用セルのSSB（NSA用SSB）の周波数位置は、初期アクセスにおいてUEによって探されるのではなく、ネットワークによって指示される。この周波数位置は、上位レイヤを介した測定の設定（例えば、RRC情報要素measObject）によって指示されてもよい。NSA用SSBの周波数位置は、SSラスタ以外であってもよい。よって、NSA用SSBのSSB PRB境界がデータPRB境界に一致していてもよい。この場合、Ssb-subcarrierOffsetの4ビットは常に0になり、有効に使われない。

【0068】

このように、PBCH内のビット及び/又はコードポイントが有効に使われない場合が発生する。

【0069】

そこで、本発明者は、PBCH内のビット及び/又はコードポイントを有効に活用し、限られたPBCHによって通知する情報量を増やすことによって、UEの負荷低減及び/又はPBCHの検出性能の向上を実現することを着想した。

【0070】

具体的には、特定条件が成立するか否かによって、PBCH内の特定情報要素（MIBコンテンツの少なくとも一部）の解釈が異なる。

【0071】

以下、本発明に係る実施形態について、図面を参照して詳細に説明する。各実施形態に係る無線通信方法は、それぞれ単独で適用されてもよいし、組み合わせて適用されてもよい。

【0072】

（第1の態様）

第1の態様における特定条件は、初期アクセス時にSSラスタ上で見つけたSSBにおいて、cellBarredがBarredであり、且つintraFreqReselectionがnot allowedであることである。

【0073】

UEは、受信されたSSBに基づいて、当該SSBがNSA用SSBであることを認識してもよい。受信されたSSBがBarred及びnot allowedを示すことから、当該SSBは、NSA用セルのSSB（NSA用SSB）である。NSA用SSBは、SSラスタ上に位置する必要はないが、SSラスタ上に位置する場合があります。初期アクセスを行うUEはSSラスタ上のSSBをサーチすることから、受信されたSSBは、SSラスタ上に位置する。よって、当該SSBは、SSラスタ上に位置していても、初期アクセス用SSBではない。この場合、UEは、別のキャリア帯域におけるSSラスタをサーチする。

【0074】

NSA用SSBのSSB PRB境界をあえてデータPRB境界と異ならせる理由はないため、NSA用SSBのSSB PRB境界は、データPRB境界と一致していてもよい。よって、NSA用SSBのSSB PRB境界がデータPRB境界と一致し、且つ当該NSA用SSBがSSラスタ上に位置する場合があります。

【0075】

NSA用SSBのSSB PRB境界がデータPRB境界と一致し、受信されたSSBがNSA用SSBである場合、UEは、SSB PRB境界とデータPRB境界とのずれが

10

20

30

40

50

ないと、想定してもよい。この場合、sub-6におけるSsb-IndexExplicitの1ビットを含むSsb-subcarrierOffsetの5ビット、又はabove-6におけるSsb-subcarrierOffsetの4ビットは、別の用途に用いられてもよい。

【0076】

受信されたSSBがNSA用SSBである場合、当該SSBに紐づくRMSI CORESETが存在しなくてもよい。また、受信されたSSBがNSA用SSBであり、当該SSBに紐づくANR用のRMSI CORESETがある場合、当該RMSI CORESETが、上位レイヤによって設定されてもよい。よって、受信されたSSBがNSA用SSBである場合、UEは、当該SSBが当該SSBに紐づくRMSI CORESETの構成を通知しないと想定してもよい。この場合、pdccchConfigSIB1の8ビットは、別の用途に用いられてもよい。

10

【0077】

RMSI受信のためのSCSは、上位レイヤによって設定されてもよい。よって、受信されたSSBがNSA用SSBである場合、UEは、当該SSBがRMSI受信のためのSCSを通知しないと想定してもよい。この場合、subCarrierSpacingCommonの1ビットは、別の用途に用いられてもよい。

【0078】

以上に述べたように、特定条件下において、Ssb-IndexExplicit、Ssb-subcarrierOffset、pdccchConfigSIB1、subCarrierSpacingCommonの少なくとも一部のビット及び/又はコードポイント(特定情報要素)は、別の用途に用いられてもよい。

20

【0079】

次に、特定情報要素の読み替え方法について説明する。

【0080】

特定情報要素は、次にSSBをサーチするSSラスタ位置を決定するために使用可能な情報を示してもよい。例えば、受信されたSSBの周波数位置から、スタンドアロン(SA)用のSSBの周波数位置までのオフセットを示してもよい。例えば、特定情報要素は、受信されたSSBが位置するSSラスタから、SA用SSBが位置するSSラスタまでのSSラスタのオフセット(例えば、SSラスタのインデックスのオフセット)を示してもよい。また、特定情報要素は、受信されたSSBが位置するSSラスタから、UEが次の初期アクセスにサーチすべきSSラスタまで、スキップすべきSSラスタの範囲又は数を示してもよい。このような特定情報要素によれば、UEは、初期アクセス時、次にサーチすべきSSラスタを知ることができ、不要なSSラスタのサーチをスキップすることによって、初期アクセス遅延及び/又は消費電力を抑えることができる。また、上記のような次にSSBをサーチするSSラスタ位置を決定するために使用可能な情報をRMSI(例えばSIB1)に含めて送信してもよい。ケース2やケース4ではSSBに紐づくRMSIがあるため、UEはSIB1を読むことができ、初期アクセス遅延及び/又は消費電力を抑えるために使用可能な情報を取得することができる。

30

【0081】

UEは、SSラスタ上の全てのSA用SSBをサーチしてもよいし、1つのSA用SSBを検出するまでサーチしてもよい。

40

【0082】

特定情報要素は、国番号(Mobile Country Code: MCC)、ネットワーク番号(Mobile Network Code: MNC)、PLMN-IDの少なくとも一部を示してもよい。ローミング時などにおいて、UEは、国及び/又はネットワークを知ることができ、国及び/又はネットワークと、SIM(Subscriber Identity Module)などから得られる情報とに基づいて、サーチすべき対象の、オペレータ、バンド、SSラスタの少なくとも1つを絞ることができる。よって、初期アクセスの遅延を抑えることができる。

【0083】

ケース3(ANRのためのRMSIがない場合)とケース4(ANRのためのRMSIがある場合)とにおいて異なる通知方法及びUE動作が適用されてもよい。すなわち、Ssb-

50

subcarrierOffsetの1ビット又はspare(スペアビット)の1ビットが特定情報要素であり、ケース3又はケース4(ケース情報)を示してもよい。あるいはSsb-subcarrierOffsetの1ビット又はspare(スペアビット)の1ビットが特定情報要素であり、cellBarredがBarredであってもSIB1を読むか否か(すなわちSIB1に初期アクセスに有用な情報が含まれているか否か)を示してもよい。あるいはSsb-subcarrierOffsetの1ビット又はspare(スペアビット)の1ビットが特定情報要素であり、他の特定情報要素がPBCH内の他のビット(情報要素)に含まれているか否か(すなわちUEが情報要素の読み替えを行うか否か)を示してもよい。

【0084】

ケース3において、Ssb-subcarrierOffsetのうちケース情報の残りのビットと、pdcchConfigSIB1と、subCarrierSpacingCommonと、が特定情報要素であり、次にサーチすべきSSラスタの周波数位置、スキップ可能なSSラスタの範囲などを示してもよいし、MCC、MNC、PLMN-IDの少なくとも一部を示してもよい。

【0085】

ケース4において、SSBに紐づけられたRMSI内のSIB1が、次にサーチすべきSSラスタの周波数位置、スキップ可能なSSラスタの範囲などを示してもよい。

【0086】

図6は、第1の態様に係る初期アクセスの動作の一例を示すフローチャートである。

【0087】

UEは、初期アクセスを開始すると(S110)、SSBをサーチする周波数位置を、予め定義された次のSSラスタへ移動させる(S120)。その後、UEは、SSBを検出したか否かを判定する(S130)。

【0088】

SSBが検出されない場合(S130:No)、UEは、処理をS120へ移行させる(次のSSラスタにおいてSSBをサーチする)。

【0089】

SSBが検出された場合(S130:Yes)、UEは、PBCHのcellBarredがbarredであるか否かを判定する(S140)。

【0090】

cellBarredがbarredである場合(S140:barred)、UEは、PBCHのintraFreqReselectionがallowedであるか否かを判定する(S210)。

【0091】

intraFreqReselectionがallowedである場合(S210:allowed)、UEは、処理をS130へ移行させる。

【0092】

intraFreqReselectionがnot allowedである場合(S210:not allowed)、UEは、ケース4である(SSBに紐づくRMSIがある)か否かを判定する(S220)。

【0093】

ケース3である場合(S220:ケース3)、UEは、MIBコンテンツに基づいて幾つかのSSラスタをスキップし(S230)、処理をS120へ移行させる(別のキャリア帯域においてSSBをサーチする)。

【0094】

ケース4である場合(S220:ケース4)、UEは、SSBに紐づけられたRMSI内のSIB1を読む(S240)。SIB1は、次にサーチすべきSSラスタの周波数位置(あるいはスキップ可能なSSラスタの範囲など)を示してもよい。その後、UEは、SIB1コンテンツに基づいて幾つかのSSラスタをスキップし(S250)、処理をS120へ移行させる(別のキャリア帯域においてSSBをサーチする)。

【0095】

cellBarredがnot barredである場合(S140:not barred)、UEは、SSBに紐づけられたRMSI内のSIB1を読む(S150)。その後、UEは、セルにアクセス

10

20

30

40

50

可能であるか否かを判定する ( S 1 6 0 )。

【 0 0 9 6 】

アクセス不可能である場合、例えば、 P L M N - I D が利用可能でない場合 ( S 1 6 0 : No、ケース 2 )、 U E は、処理を S 2 5 0 へ移行させる。

【 0 0 9 7 】

アクセス可能である場合 ( S 1 6 0 : Yes、ケース 1 )、 U E は、他の R M S I を読み、ランダムアクセスを行い ( S 1 7 0 )、 R R C 接続を確立し ( S 1 8 0 )、このフローを終了する。

【 0 0 9 8 】

この動作によれば、ケース 3 だけでなく、ケース 2 及びケース 4 においても、次にサーチすべき S S ラスタに関する情報を通知できるため、 U E は、初期アクセス遅延を抑えることができる。

10

【 0 0 9 9 】

もし前述の通知方法 2 を用いる場合において、 R M S I が存在しない場合 ( ケース 3 )、次にサーチする S S ラスタの周波数位置を通知することが考えられる。しかしながら、通知方法 2 は、ケース 2 及びケース 4 において、次にサーチする S S ラスタの周波数位置を通知することができない。ケース 2 及びケース 4 においては、 S S B に紐づけられた R M S I があるため、 p d c c h C o n f i g S I B 1 のビットを他の用途に使うことができない。

【 0 1 0 0 】

( 第 2 の態様 )

20

第 2 の態様における特定条件は、コネクテッド ( C O N N E C T E D モード ) U E が、 S S ラスタ以外の周波数位置における S S B の測定 ( M e a s u r e m e n t ) を指示されることである。例えば、測定対象の S S B の周波数位置は、上位レイヤ ( 例えば、 R R C シグナリングの情報要素メジャメントオブジェクト ( m e a s O b j e c t ) ) を介して、指示される。

【 0 1 0 1 】

U E は、測定対象の S S B が S S ラスタ上に位置しないことから、当該 S S B は、 N S A 用 S S B であると想定してもよい。

【 0 1 0 2 】

第 1 の態様と同様、 N S A 用 S S B の S S B P R B 境界がデータ P R B 境界と一致し、受信された S S B が N S A 用 S S B である場合、 U E は、 S S B P R B 境界とデータ P R B 境界とのずれがないと、想定してもよい。この場合、 s u b - 6 における S s b - I n d e x E x p l i c i t の 1 ビットを含む S s b - s u b c a r r i e r O f f s e t の 5 ビット、又は a b o v e - 6 における S s b - s u b c a r r i e r O f f s e t の 4 ビットは、別の用途に用いられてもよい。

30

【 0 1 0 3 】

第 1 の態様と同様、受信された S S B が N S A 用 S S B である場合、当該 S S B に紐づく R M S I C O R E S E T が存在しなくてもよい。また、受信された S S B が N S A 用 S S B であり、当該 S S B に紐づく A N R 用の R M S I C O R E S E T がある場合、当該 R M S I C O R E S E T が、上位レイヤによって設定されてもよい。よって、受信された S S B が N S A 用 S S B である場合、 U E は、当該 S S B が当該 S S B に紐づく R M S I C O R E S E T の構成を通知しないと想定してもよい。この場合、 p d c c h C o n f i g S I B 1 の 8 ビットは、別の用途に用いられてもよい。

40

【 0 1 0 4 】

第 1 の態様と同様、 R M S I 受信のための S C S は、上位レイヤによって設定されてもよい。よって、受信された S S B が N S A 用 S S B である場合、 U E は、当該 S S B が R M S I 受信のための S C S を通知しないと想定してもよい。この場合、 s u b C a r r i e r S p a c i n g C o m m o n の 1 ビットは、別の用途に用いられてもよい。

【 0 1 0 5 】

測定対象の S S B が、 S S ラスタ上に位置しない場合、 U E は、 B a r r e d 及び n o t a l l o w e d を想定してもよい。この場合、 c e l l B a r r e d 及び i n t r a F r e q R e s e l e c t i o n は、別の用途に用いられてもよい。

50

## 【 0 1 0 6 】

以上に述べたように、特定条件下において、Ssb-IndexExplicit、Ssb-subcarrierOffset、pdcchConfigSIB1、subCarrierSpacingCommon、cellBarred、intraFreqReselectionの少なくとも一部のビット及び/又はコードポイント（特定情報要素）は、別の用途に用いられてもよい。

## 【 0 1 0 7 】

次に、特定情報要素の読み替え方法について説明する。

## 【 0 1 0 8 】

特定情報要素は、コネクテッドUEがPBCHから読むべき情報を示してもよいし、セル毎に異なる可能性がある情報を示してもよい。

10

## 【 0 1 0 9 】

特定情報要素は、SSB及び/又はDMRSの時間リソースを示すタイミング関連情報を示してもよい。タイミング関連情報は、SystemFrameNumber、Half-frame-index、SSBインデックス（暗示的通知及び/又は明示的通知（Ssb-IndexExplicit））、Dmrs-TypeA-Positionの少なくとも一部を示してもよい。

## 【 0 1 1 0 】

キャリア間においてタイミングが一致しているとは限らないので、UEは、測定を指示されたキャリアにおいてPBCHからタイミング関連情報を読むことが好ましい。また、タイミング関連情報は、セル毎に異なる可能性があるため、もし上位レイヤによってセル毎のタイミング関連情報を通知すると、オーバーヘッドが大きくなる。よって、タイミング関連情報は、読み替えられない（別の用途に用いられない）。

20

## 【 0 1 1 1 】

タイミング関連情報の情報要素に加え、特定情報要素を用いて、タイミング関連情報が通知されてもよい。例えば、タイミング関連情報の情報要素に加え、特定情報要素を用いて、タイミング関連情報が繰り返し送信されてもよい。この繰り返し送信によれば、タイミング関連情報の検出率を向上させることができる。

## 【 0 1 1 2 】

特定情報要素が予め仕様で定義された固定値を示してもよい。UEが特定情報要素を固定値と想定してPBCHを復号することによって、検出率を向上させることができる。例えば、UEは、固定値を基準（既知の値）として用いることによって、タイミング関連情報を復号してもよい。

30

## 【 0 1 1 3 】

タイミング関連情報が符号化され、符号化された情報が、タイミング関連情報の情報要素と特定情報要素とを用いて、通知されてもよい。例えば、特定情報要素がタイミング関連情報に対する冗長コードであってもよい。特定情報要素が、タイミング関連情報の繰り返し送信、固定値、符号化された情報に用いられる場合、特定情報要素は、タイミング関連情報の復号に用いられる情報であってもよい。

## 【 0 1 1 4 】

特定情報要素は、SSBの測定に関する測定関連情報を示してもよい。測定関連情報は、別のSSBの周波数位置を示してもよい。例えば、上位レイヤによって測定対象のSSBの周波数位置が指示され、当該SSBの特定情報要素が別のSSBの周波数位置を示してもよい。UEは、上位レイヤによって示されたSSBと、測定関連情報によって示されたSSBと、を測定してもよい。例えば、UEが、広帯域をサポートし、複数のSSBがその帯域内の異なる周波数位置に配置される場合、複数のSSBが異なる時間位置に配置される場合に比べて、測定時間を抑えることができる。

40

## 【 0 1 1 5 】

測定関連情報は、セル毎のSSBの実際の送信周期を含んでもよい。例えば、この送信周期は、SSバーストセット周期であってもよい。上位レイヤ（例えば、RRCSigナリングのメジャメントオブジェクト）によって通知されるSSB測定タイミング構成（SS block based RRM measurement timing configuration: SMT C）は、SSBの測

50

定周期を含む。また、アイドルUEに対し、SIBによってSMTCが通知されてもよい。

【0116】

例えば、受信ビームが多いUEが測定周期毎に受信ビームを切り替えてSSBを測定する場合、測定は多くの測定周期を必要とするため、測定に時間が掛かる。SSバーストセット周期がSMTCの測定周期よりも短い場合、SSBが、SSバーストセット周期を通知し、UEは、SSバーストセット周期毎に受信ビームを切り替えてSSBを測定してもよい。この場合、測定周期を用いる場合に比べて、測定に要する時間を短くすることができる。

【0117】

特定情報要素は、SSB間の疑似コロケーション(Quasi Co-location: QCL)に関するQCL関連情報を示してもよい。或るSSBを運ぶチャネルの大規模な性質が、別のSSBを運ぶチャネルから推論され得る場合、それらのSSBはQCLである。大規模な性質は例えば、遅延スプレッド、ドップラスプレッド、ドップラシフト、平均利得、平均遅延、空間受信パラメータの少なくとも1つを含む。空間受信パラメータは例えばビーム(例えば送信ビーム)である。

10

【0118】

例えば、或るSSB内のQCL関連情報は、当該SSBとQCL関係にある(quasi co-located)SSBのSSBインデックスを含んでもよい。また、例えば、QCL関係にあるSSBインデックスを示す複数のQCLパターンが仕様によって定義されてもよいし、上位レイヤによって設定されてもよい。この場合、QCL関連情報は、QCLパターンのインデックスを含んでもよい。

20

【0119】

1つのSSバーストセットにおいて最大64個のSSBを送ることができ、全てのSSBがQCLでなく、全てのSSBが異なる基地局ビーム(送信ビーム)を用いて送信されると想定すると、UEは、1つのSSバーストセットにおいて、1つの基地局ビームに対して1つのSSBしか測定できないため、長い測定時間を要する。

【0120】

複数のSSBが、同一の基地局ビームを用いて送信され、複数のSSBのQCL関連情報がUEに通知される場合、UEは、複数のSSBに対して異なる受信ビームを適用してもよいし、1つのSSバーストセットにおいて、1つの基地局ビームに対して複数のSSBを測定できる。したがって、測定遅延を抑える、又は測定精度を向上させることができる。

30

【0121】

測定関連情報及び/又はQCL関連情報は、上位レイヤによって通知されてもよい。しかし、測定関連情報及び/又はQCL関連情報は、セル毎に異なる可能性があるため、セル毎の測定関連情報及び/又はQCL関連情報を上位レイヤによって通知する場合、オーバーヘッドが大きい。

【0122】

(第3の態様)

第3の態様における特定条件は、コネクテッドUEが、SSBの測定を指示され、且つ上位レイヤによって設定される特定パラメータが測定値であることである。

40

【0123】

特定パラメータは、各SSBが測定対象であるか否かを示すビットマップであってもよい。このビットマップは、全てのSSBインデックスに対応するビットを有する。各ビットは、1であれば対応するSSBが送信されることを示し、0であれば対応するSSBが送信されないことを示す。ビットマップの特定位置以降のビットが全て0である場合、Ssb-IndexExplicitの一部又は全部は、0となるため、別の用途に用いられてもよい。

【0124】

例えば、above-6において、SSBインデックスの数は最大で64である。ビットマップにおけるビット#0~#63のうち、ビット#32~#63の全てが0である場合、UEはサーチすべきSSBのSSBインデックスが#0~#31に絞ることができ、Ssb

50

b-IndexExplicitの1ビットは、別の用途に用いられてもよい。

【0125】

以上に述べたように、特定条件下において、Ssb-IndexExplicitの少なくとも一部のビット及び/又はコードポイント(特定情報要素)は、別の用途に用いられてもよい。

【0126】

次に、特定情報要素の読み替え方法について説明する。

【0127】

第2の態様と同様、特定情報要素は、タイミング関連情報、測定関連情報、QCL関連情報の少なくとも1つを示してもよい。第2の態様と同様、特定情報要素は、タイミング関連情報の繰り返し、タイミング関連情報の符号化、固定値に用いられてもよい。

10

【0128】

(第4の態様)

第4の態様における特定条件は、コネクテッドUEが、特定周波数帯におけるSSBの測定を指示されたことであってもよい。例えば、特定周波数帯は、FR2であってもよい。

【0129】

受信されたSSBがSSラスタ以外に位置する場合、Ssb-subcarrierOffsetの4ビットは、別の用途に用いられてもよい。

【0130】

受信されたSSBがSSラスタ上に位置する場合、Ssb-subcarrierOffsetが用いられる可能性があるため、spare(スペアビット)の1ビット又は2ビットは、別の用途に用いられてもよい。

20

【0131】

以上に述べたように、特定条件下において、Ssb-subcarrierOffset、spareの少なくとも一部のビット及び/又はコードポイント(特定情報要素)は、別の用途に用いられてもよい。

【0132】

次に、特定情報要素の読み替え方法について説明する。

【0133】

特定情報要素は、QCL関連情報を示してもよい。

【0134】

例えば、FR2において、UEがアナログビームフォーミング(BF)を用いて受信ビームフォーミングを行う場合、1回の測定に1つの受信ビームしか用いることができないため、測定周期×受信ビーム数の時間にわたって測定を行う。よって、測定遅延が懸念される。

30

【0135】

この場合、特定情報要素が、同じSSバーストセット内の複数のSSBが、同じ基地局ビームを使って送信されていることを示すQCL関連情報を通知してもよい。このQCL関連情報によれば、測定遅延を抑えることができる。

【0136】

(他の態様)

PBCH内の情報要素のうち、上位レイヤによって通知できる情報であっても、PBCHによって通知されることが好ましい場合がある。

40

【0137】

例えば、セル毎に異なる可能性があるパラメータは、測定対象のセル毎に上位レイヤによって通知するとオーバーヘッドが大きくなるため、PBCHによって通知されることが好ましい。

【0138】

また、例えば、LTEのネットワークからNRキャリアのSSBの測定指示を行う場合、NRのセルのパラメータをLTEに接続中のUEへ上位レイヤによって通知するためには、NRのgNBが有する数多くのパラメータをLTEのeNBへ通知することが必要にな

50

る。よって、上位レイヤによって測定のパラメータを通知するよりも、P B C Hによって測定のパラメータを通知することが好ましい。言い換えれば、N Rのセカンダリネットワーク(S N)によって設定されたパラメータをL T Eのマスタネットワーク(M N)に共有しなくてもよい。

【0139】

以上に述べた複数の態様が組み合わされてもよい。例えば、受信されたS S BがS S ラスタに位置するか否かによって特定情報要素が異なってもよい。また、例えば、U Eが初期アクセスを行うか否かによって特定情報要素が異なってもよい。また、例えば、U Eがコネクテッドであるか否かによって特定情報要素が異なってもよい。また、例えば、受信されたS S Bに紐づくR M S Iがあるか否かによって特定情報要素が異なってもよい。

10

【0140】

(無線通信システム)

以下、本発明の一実施形態に係る無線通信システムの構成について説明する。この無線通信システムでは、本発明の上記各実施形態に係る無線通信方法のいずれか又はこれらの組み合わせを用いて通信が行われる。

【0141】

図7は、本発明の一実施形態に係る無線通信システムの概略構成の一例を示す図である。無線通信システム1では、L T Eシステムのシステム帯域幅(例えば、20MHz)を1単位とする複数の基本周波数ブロック(コンポーネントキャリア)を一体としたキャリアアグリゲーション(C A)及び/又はデュアルコネクティビティ(D C)を適用することができる。

20

【0142】

なお、無線通信システム1は、L T E(Long Term Evolution)、L T E - A(LTE-Advanced)、L T E - B(LTE-Beyond)、S U P E R 3 G、I M T - A d v a n c e d、4 G(4th generation mobile communication system)、5 G(5th generation mobile communication system)、N R(New Radio)、F R A(Future Radio Access)、N e w - R A T(Radio Access Technology)などと呼ばれてもよいし、これらを実現するシステムと呼ばれてもよい。

【0143】

無線通信システム1は、比較的カバレッジの広いマクロセルC 1を形成する無線基地局11と、マクロセルC 1内に配置され、マクロセルC 1よりも狭いスモールセルC 2を形成する無線基地局12(12a-12c)と、を備えている。また、マクロセルC 1及び各スモールセルC 2には、ユーザ端末20が配置されている。各セル及びユーザ端末20の配置、数などは、図に示すものに限られない。

30

【0144】

ユーザ端末20は、無線基地局11及び無線基地局12の双方に接続することができる。ユーザ端末20は、マクロセルC 1及びスモールセルC 2を、C A又はD Cにより同時に使用することが想定される。また、ユーザ端末20は、複数のセル(C C)(例えば、5個以下のC C、6個以上のC C)を用いてC A又はD Cを適用してもよい。

【0145】

ユーザ端末20と無線基地局11との間は、相対的に低い周波数帯域(例えば、2GHz)で帯域幅が狭いキャリア(既存キャリア、legacy carrierなどとも呼ばれる)を用いて通信を行うことができる。一方、ユーザ端末20と無線基地局12との間は、相対的に高い周波数帯域(例えば、3.5GHz、5GHzなど)で帯域幅が広いキャリアが用いられてもよいし、無線基地局11との間と同じキャリアが用いられてもよい。なお、各無線基地局が利用する周波数帯域の構成はこれに限られない。

40

【0146】

無線基地局11と無線基地局12との間(又は、2つの無線基地局12間)は、有線接続(例えば、C P R I(Common Public Radio Interface)に準拠した光ファイバ、X 2インターフェースなど)又は無線接続する構成であってもよい。

50

## 【 0 1 4 7 】

無線基地局 1 1 及び各無線基地局 1 2 は、それぞれ上位局装置 3 0 に接続され、上位局装置 3 0 を介してコアネットワーク 4 0 に接続される。なお、上位局装置 3 0 には、例えば、アクセスゲートウェイ装置、無線ネットワークコントローラ ( R N C )、モビリティマネジメントエンティティ ( M M E ) などが含まれるが、これに限定されるものではない。また、各無線基地局 1 2 は、無線基地局 1 1 を介して上位局装置 3 0 に接続されてもよい。

## 【 0 1 4 8 】

なお、無線基地局 1 1 は、相対的に広いカバレッジを有する無線基地局であり、マクロ基地局、集約ノード、eNB ( eNodeB )、送受信ポイント、などと呼ばれてもよい。また、無線基地局 1 2 は、局所的なカバレッジを有する無線基地局であり、スモール基地局、  
10  
マイクロ基地局、ピコ基地局、フェムト基地局、HeNB ( Home eNodeB )、RRH ( Remote Radio Head )、送受信ポイントなどと呼ばれてもよい。以下、無線基地局 1 1 及び 1 2 を区別しない場合は、無線基地局 1 0 と総称する。

## 【 0 1 4 9 】

各ユーザ端末 2 0 は、LTE、LTE - A などの各種通信方式に対応した端末であり、移動通信端末 ( 移動局 ) だけでなく固定通信端末 ( 固定局 ) を含んでもよい。

## 【 0 1 5 0 】

無線通信システム 1 においては、無線アクセス方式として、下りリンクに直交周波数分割多元接続 ( OFDMA : Orthogonal Frequency Division Multiple Access ) が適用され、上りリンクにシングルキャリア - 周波数分割多元接続 ( SC - FDMA : Single  
20  
Carrier Frequency Division Multiple Access ) 及び / 又は OFDMA が適用される。

## 【 0 1 5 1 】

OFDMA は、周波数帯域を複数の狭い周波数帯域 ( サブキャリア ) に分割し、各サブキャリアにデータをマッピングして通信を行うマルチキャリア伝送方式である。SC - FDMA は、システム帯域幅を端末毎に 1 つ又は連続したリソースブロックを有する帯域に分割し、複数の端末が互いに異なる帯域を用いることで、端末間の干渉を低減するシングルキャリア伝送方式である。なお、上り及び下りの無線アクセス方式は、これらの組み合わせに限らず、他の無線アクセス方式が用いられてもよい。

## 【 0 1 5 2 】

無線通信システム 1 では、下りリンクのチャンネルとして、各ユーザ端末 2 0 で共有される  
30  
下り共有チャンネル ( PDSCH : Physical Downlink Shared Channel )、ブロードキャストチャンネル ( PBCH : Physical Broadcast Channel )、下り L 1 / L 2 制御チャンネルなどが用いられる。PDSCH により、ユーザデータ、上位レイヤ制御情報、SIB ( System Information Block ) などが伝送される。また、PBCH により、MIB ( Master Information Block ) が伝送される。

## 【 0 1 5 3 】

下り L 1 / L 2 制御チャンネルは、PDCCH ( Physical Downlink Control Channel )、EPDCCH ( Enhanced Physical Downlink Control Channel )、PCFICH ( Physical Control Format Indicator Channel )、PHICH ( Physical Hybrid-ARQ Indicator Channel ) などを  
40  
含む。PDCCH により、PDSCH 及び / 又は PUSCH のスケジューリング情報を含む下り制御情報 ( DCI : Downlink Control Information ) などが伝送される。

## 【 0 1 5 4 】

なお、DCI によってスケジューリング情報が通知されてもよい。例えば、DL データ受信をスケジューリングする DCI は、DL アサインメントと呼ばれてもよいし、UL データ送信をスケジューリングする DCI は、UL グラントと呼ばれてもよい。

## 【 0 1 5 5 】

PCFICH により、PDCCH に用いる OFDM シンボル数が伝送される。PHICH により、PUSCH に対する HARQ ( Hybrid Automatic Repeat reQuest ) の送達  
50  
確認情報 ( 例えば、再送制御情報、HARQ - ACK、ACK / NACK などともいう )

が伝送される。E P D C C Hは、P D S C H（下り共有データチャネル）と周波数分割多重され、P D C C Hと同様にD C Iなどの伝送に用いられる。

【0156】

無線通信システム1では、上りリンクのチャネルとして、各ユーザ端末20で共有される上り共有チャネル（P U S C H：Physical Uplink Shared Channel）、上り制御チャネル（P U C C H：Physical Uplink Control Channel）、ランダムアクセスチャネル（P R A C H：Physical Random Access Channel）などが用いられる。P U S C Hにより、ユーザデータ、上位レイヤ制御情報などが伝送される。また、P U C C Hにより、下りリンクの無線品質情報（C Q I：Channel Quality Indicator）、送達確認情報、スケジューリングリクエスト（S R：Scheduling Request）などが伝送される。P R A C Hにより、セルとの接続確立のためのランダムアクセスプリアンプルが伝送される。

10

【0157】

無線通信システム1では、下り参照信号として、セル固有参照信号（C R S：Cell-specific Reference Signal）、チャネル状態情報参照信号（C S I - R S：Channel State Information-Reference Signal）、復調用参照信号（D M R S：DeModulation Reference Signal）、位置決定参照信号（P R S：Positioning Reference Signal）などが伝送される。また、無線通信システム1では、上り参照信号として、測定用参照信号（S R S：Sounding Reference Signal）、復調用参照信号（D M R S）などが伝送される。なお、D M R Sはユーザ端末固有参照信号（UE-specific Reference Signal）と呼ばれてもよい。また、伝送される参照信号は、これらに限られない。

20

【0158】

<無線基地局>

図8は、本発明の一実施形態に係る無線基地局の全体構成の一例を示す図である。無線基地局10は、複数の送受信アンテナ101と、アンプ部102と、送受信部103と、ベースバンド信号処理部104と、呼処理部105と、伝送路インターフェース106と、を備えている。なお、送受信アンテナ101、アンプ部102、送受信部103は、それぞれ1つ以上を含むように構成されればよい。

【0159】

下りリンクにより無線基地局10からユーザ端末20に送信されるユーザデータは、上位局装置30から伝送路インターフェース106を介してベースバンド信号処理部104に入力される。

30

【0160】

ベースバンド信号処理部104では、ユーザデータに関して、P D C P（Packet Data Convergence Protocol）レイヤの処理、ユーザデータの分割・結合、R L C（Radio Link Control）再送制御などのR L Cレイヤの送信処理、M A C（Medium Access Control）再送制御（例えば、H A R Qの送信処理）、スケジューリング、伝送フォーマット選択、チャネル符号化、逆高速フーリエ変換（I F F T：Inverse Fast Fourier Transform）処理、プリコーディング処理などの送信処理が行われて送受信部103に転送される。また、下り制御信号に関しても、チャネル符号化、逆高速フーリエ変換などの送信処理が行われて、送受信部103に転送される。

40

【0161】

送受信部103は、ベースバンド信号処理部104からアンテナ毎にプリコーディングして出力されたベースバンド信号を無線周波数帯に変換して送信する。送受信部103で周波数変換された無線周波数信号は、アンプ部102により増幅され、送受信アンテナ101から送信される。送受信部103は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるトランスミッター/レシーバー、送受信回路又は送受信装置から構成することができる。なお、送受信部103は、一体の送受信部として構成されてもよいし、送信部及び受信部から構成されてもよい。

【0162】

50

一方、上り信号については、送受信アンテナ 101 で受信された無線周波数信号がアンブ部 102 で増幅される。送受信部 103 はアンブ部 102 で増幅された上り信号を受信する。送受信部 103 は、受信信号をベースバンド信号に周波数変換して、ベースバンド信号処理部 104 に出力する。

【0163】

ベースバンド信号処理部 104 では、入力された上り信号に含まれるユーザデータに対して、高速フーリエ変換 (FFT: Fast Fourier Transform) 処理、逆離散フーリエ変換 (IDFT: Inverse Discrete Fourier Transform) 処理、誤り訂正復号、MAC 再送制御の受信処理、RLC レイヤ及び PDCP レイヤの受信処理がなされ、伝送路インターフェース 106 を介して上位局装置 30 に転送される。呼処理部 105 は、通信チャネルの呼処理 (設定、解放など)、無線基地局 10 の状態管理、無線リソースの管理などを行う。

10

【0164】

伝送路インターフェース 106 は、所定のインターフェースを介して、上位局装置 30 と信号を送受信する。また、伝送路インターフェース 106 は、基地局間インターフェース (例えば、CPR (Common Public Radio Interface) に準拠した光ファイバ、X2 インターフェース) を介して他の無線基地局 10 と信号を送受信 (バックホールシグナリング) してもよい。

【0165】

また、送受信部 103 は、ブロードキャストチャネル (例えば、PBCH) を含む同期信号ブロック (例えば、SSB、SS/PBCH ブロック) を送信してもよい。

20

【0166】

図 9 は、本発明の一実施形態に係る無線基地局の機能構成の一例を示す図である。なお、本例では、本実施形態における特徴部分の機能ブロックを主に示しており、無線基地局 10 は、無線通信に必要な他の機能ブロックも有しているものとする。

【0167】

ベースバンド信号処理部 104 は、制御部 (スケジューラ) 301 と、送信信号生成部 302 と、マッピング部 303 と、受信信号処理部 304 と、測定部 305 と、を少なくとも備えている。なお、これらの構成は、無線基地局 10 に含まれていればよく、一部又は全部の構成がベースバンド信号処理部 104 に含まれなくてもよい。

30

【0168】

制御部 (スケジューラ) 301 は、無線基地局 10 全体の制御を実施する。制御部 301 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるコントローラ、制御回路又は制御装置から構成することができる。

【0169】

制御部 301 は、例えば、送信信号生成部 302 による信号の生成、マッピング部 303 による信号の割り当てなどを制御する。また、制御部 301 は、受信信号処理部 304 による信号の受信処理、測定部 305 による信号の測定などを制御する。

【0170】

制御部 301 は、システム情報、下りデータ信号 (例えば、PDSCH で送信される信号)、下り制御信号 (例えば、PDCCH 及び / 又は EPDCCH で送信される信号。送達確認情報など) のスケジューリング (例えば、リソース割り当て) を制御する。また、制御部 301 は、上りデータ信号に対する再送制御の要否を判定した結果などに基づいて、下り制御信号、下りデータ信号などの生成を制御する。また、制御部 301 は、同期信号 (例えば、PSS (Primary Synchronization Signal) / SSS (Secondary Synchronization Signal))、下り参照信号 (例えば、CRS、CSI-RS、DMRS) などのスケジューリングの制御を行う。

40

【0171】

また、制御部 301 は、上りデータ信号 (例えば、PUSCH で送信される信号)、上り制御信号 (例えば、PUCCH 及び / 又は PUSCH で送信される信号。送達確認情報な

50

ど)、ランダムアクセスプリアンプル(例えば、P R A C Hで送信される信号)、上り参照信号などのスケジューリングを制御する。

【0172】

送信信号生成部302は、制御部301からの指示に基づいて、下り信号(下り制御信号、下りデータ信号、下り参照信号など)を生成して、マッピング部303に出力する。送信信号生成部302は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される信号生成器、信号生成回路又は信号生成装置から構成することができる。

【0173】

送信信号生成部302は、例えば、制御部301からの指示に基づいて、下りデータの割り当て情報を通知するDLアサインメント及び/又は上りデータの割り当て情報を通知するULグラントを生成する。DLアサインメント及びULグラントは、いずれもDCIであり、DCIフォーマットに従う。また、下りデータ信号には、各ユーザ端末20からのチャネル状態情報(CSI: Channel State Information)などに基づいて決定された符号化率、変調方式などに従って符号化処理、変調処理が行われる。

10

【0174】

マッピング部303は、制御部301からの指示に基づいて、送信信号生成部302で生成された下り信号を、所定の無線リソースにマッピングして、送受信部103に出力する。マッピング部303は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるマッパー、マッピング回路又はマッピング装置から構成することができる。

【0175】

受信信号処理部304は、送受信部103から入力された受信信号に対して、受信処理(例えば、デマッピング、復調、復号など)を行う。ここで、受信信号は、例えば、ユーザ端末20から送信される上り信号(上り制御信号、上りデータ信号、上り参照信号など)である。受信信号処理部304は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される信号処理器、信号処理回路又は信号処理装置から構成することができる。

20

【0176】

受信信号処理部304は、受信処理により復号された情報を制御部301に出力する。例えば、H A R Q - A C Kを含むP U C C Hを受信した場合、H A R Q - A C Kを制御部301に出力する。また、受信信号処理部304は、受信信号及び/又は受信処理後の信号を、測定部305に出力する。

30

【0177】

測定部305は、受信した信号に関する測定を実施する。測定部305は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される測定器、測定回路又は測定装置から構成することができる。

【0178】

例えば、測定部305は、受信した信号に基づいて、R R M (Radio Resource Management)測定、C S I (Channel State Information)測定などを行ってもよい。測定部305は、受信電力(例えば、R S R P (Reference Signal Received Power))、受信品質(例えば、R S R Q (Reference Signal Received Quality))、S I N R (Signal to Interference plus Noise Ratio)、信号強度(例えば、R S S I (Received Signal Strength Indicator))、伝搬路情報(例えば、C S I)などについて測定してもよい。測定結果は、制御部301に出力されてもよい。

40

【0179】

また、制御部301は、ブロードキャストチャネル内の特定情報要素を、特定条件が成立するか否かによって異なる情報要素として解釈し(読み替え)てもよい。

【0180】

<ユーザ端末>

図10は、本発明の一実施形態に係るユーザ端末の全体構成の一例を示す図である。ユーザ端末20は、複数の送受信アンテナ201と、アンプ部202と、送受信部203と、ベースバンド信号処理部204と、アプリケーション部205と、を備えている。なお、

50

送受信アンテナ 201、アンプ部 202、送受信部 203 は、それぞれ 1 つ以上を含むように構成されればよい。

【0181】

送受信アンテナ 201 で受信された無線周波数信号は、アンプ部 202 で増幅される。送受信部 203 は、アンプ部 202 で増幅された下り信号を受信する。送受信部 203 は、受信信号をベースバンド信号に周波数変換して、ベースバンド信号処理部 204 に出力する。送受信部 203 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるトランスミッター/レシーバー、送受信回路又は送受信装置から構成することができる。なお、送受信部 203 は、一体の送受信部として構成されてもよいし、送信部及び受信部から構成されてもよい。

10

【0182】

ベースバンド信号処理部 204 は、入力されたベースバンド信号に対して、FFT 処理、誤り訂正復号、再送制御の受信処理などを行う。下りリンクのユーザデータは、アプリケーション部 205 に転送される。アプリケーション部 205 は、物理レイヤ及び MAC レイヤより上位のレイヤに関する処理などを行う。また、下りリンクのデータのうち、ブロードキャスト情報もアプリケーション部 205 に転送されてもよい。

【0183】

一方、上りリンクのユーザデータについては、アプリケーション部 205 からベースバンド信号処理部 204 に入力される。ベースバンド信号処理部 204 では、再送制御の送信処理（例えば、HARQ の送信処理）、チャンネル符号化、プリコーディング、離散フーリエ変換（DFT：Discrete Fourier Transform）処理、IFFT 処理などが行われて送受信部 203 に転送される。送受信部 203 は、ベースバンド信号処理部 204 から出力されたベースバンド信号を無線周波数帯に変換して送信する。送受信部 203 で周波数変換された無線周波数信号は、アンプ部 202 により増幅され、送受信アンテナ 201 から送信される。

20

【0184】

また、ブロードキャストチャンネル（例えば、PBCH）を含む同期信号ブロック（例えば、SSB、SS/PBCH ブロック）をセルから受信してもよい。

【0185】

図 11 は、本発明の一実施形態に係るユーザ端末の機能構成の一例を示す図である。なお、本例においては、本実施形態における特徴部分の機能ブロックを主に示しており、ユーザ端末 20 は、無線通信に必要な他の機能ブロックも有しているものとする。

30

【0186】

ユーザ端末 20 が有するベースバンド信号処理部 204 は、制御部 401 と、送信信号生成部 402 と、マッピング部 403 と、受信信号処理部 404 と、測定部 405 と、を少なくとも備えている。なお、これらの構成は、ユーザ端末 20 に含まれていればよく、一部又は全部の構成がベースバンド信号処理部 204 に含まれなくてもよい。

【0187】

制御部 401 は、ユーザ端末 20 全体の制御を実施する。制御部 401 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるコントローラ、制御回路又は制御装置から構成することができる。

40

【0188】

制御部 401 は、例えば、送信信号生成部 402 による信号の生成、マッピング部 403 による信号の割り当てなどを制御する。また、制御部 401 は、受信信号処理部 404 による信号の受信処理、測定部 405 による信号の測定などを制御する。

【0189】

制御部 401 は、無線基地局 10 から送信された下り制御信号及び下りデータ信号を、受信信号処理部 404 から取得する。制御部 401 は、下り制御信号及び/又は下りデータ信号に対する再送制御の要否を判定した結果などに基づいて、上り制御信号及び/又は上りデータ信号の生成を制御する。

50

## 【 0 1 9 0 】

また、制御部 4 0 1 は、無線基地局 1 0 から通知された各種情報を受信信号処理部 4 0 4 から取得した場合、当該情報に基づいて制御に用いるパラメータを更新してもよい。

## 【 0 1 9 1 】

送信信号生成部 4 0 2 は、制御部 4 0 1 からの指示に基づいて、上り信号（上り制御信号、上りデータ信号、上り参照信号など）を生成して、マッピング部 4 0 3 に出力する。送信信号生成部 4 0 2 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される信号生成器、信号生成回路又は信号生成装置から構成することができる。

## 【 0 1 9 2 】

送信信号生成部 4 0 2 は、例えば、制御部 4 0 1 からの指示に基づいて、送達確認情報、チャンネル状態情報（CSI）などに関する上り制御信号を生成する。また、送信信号生成部 4 0 2 は、制御部 4 0 1 からの指示に基づいて上りデータ信号を生成する。例えば、送信信号生成部 4 0 2 は、無線基地局 1 0 から通知される下り制御信号にUL Grantが含まれている場合に、制御部 4 0 1 から上りデータ信号の生成を指示される。

10

## 【 0 1 9 3 】

マッピング部 4 0 3 は、制御部 4 0 1 からの指示に基づいて、送信信号生成部 4 0 2 で生成された上り信号を無線リソースにマッピングして、送受信部 2 0 3 へ出力する。マッピング部 4 0 3 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明されるマッパー、マッピング回路又はマッピング装置から構成することができる。

## 【 0 1 9 4 】

受信信号処理部 4 0 4 は、送受信部 2 0 3 から入力された受信信号に対して、受信処理（例えば、デマッピング、復調、復号など）を行う。ここで、受信信号は、例えば、無線基地局 1 0 から送信される下り信号（下り制御信号、下りデータ信号、下り参照信号など）である。受信信号処理部 4 0 4 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される信号処理器、信号処理回路又は信号処理装置から構成することができる。また、受信信号処理部 4 0 4 は、本発明に係る受信部を構成することができる。

20

## 【 0 1 9 5 】

受信信号処理部 4 0 4 は、受信処理により復号された情報を制御部 4 0 1 に出力する。受信信号処理部 4 0 4 は、例えば、ブロードキャスト情報、システム情報、RRCシグナリング、DCIなどを、制御部 4 0 1 に出力する。また、受信信号処理部 4 0 4 は、受信信号及び/又は受信処理後の信号を、測定部 4 0 5 に出力する。

30

## 【 0 1 9 6 】

測定部 4 0 5 は、受信した信号に関する測定を実施する。測定部 4 0 5 は、本発明に係る技術分野での共通認識に基づいて説明される測定器、測定回路又は測定装置から構成することができる。

## 【 0 1 9 7 】

例えば、測定部 4 0 5 は、受信した信号に基づいて、RRM測定、CSI測定などを行ってもよい。測定部 4 0 5 は、受信電力（例えば、RSRP）、受信品質（例えば、RSRQ、SINR）、信号強度（例えば、RSSI）、伝搬路情報（例えば、CSI）などについて測定してもよい。測定結果は、制御部 4 0 1 に出力されてもよい。

40

## 【 0 1 9 8 】

また、制御部 4 0 1 は、ブロードキャストチャンネル（例えば、PBCH）内の特定情報要素（例えば、Ssb-IndexExplicit、Ssb-subcarrierOffset、pdcchConfigSIB1、subCarrierSpacingCommon、cellBarred、intraFreqReselection、spareの少なくとも一部のビット及び/又はコードポイント）を、特定条件が成立するか否かによって異なる情報要素として解釈し（読み替え）てもよい。

## 【 0 1 9 9 】

また、受信された同期信号ブロック（例えば、SSB、SS/PBCHブロック）が、初期アクセス用の同期信号ブロックを配置するために予め定義された複数の周波数位置（例えば、SSラスタ）の一つにおいて検出され、受信された同期信号ブロックが、受信され

50

た同期信号ブロックのキャリア帯域内にキャンブオン可能なセルがないことを示すこと（例えば、cellBarredがBarredであり、且つintraFreqReselectionがnot allowedであること）であってもよい。特定情報要素は、同期信号ブロックのサブキャリアオフセットに関する情報要素（例えば、Ssb-IndexExplicit及び／又はSsb-subcarrierOffset）と、下り物理制御チャネルの構成に関する情報要素（例えば、pdcchConfigSIB1）と、サブキャリア間隔に関する情報要素（例えば、subCarrierSpacingCommon）と、の少なくとも一部であってもよい。

【0200】

また、特定条件は、ユーザ端末がセルに接続された状態において、ユーザ端末が、初期アクセス用の同期信号ブロックを配置するために予め定義された複数の周波数位置以外の周波数位置における同期信号ブロックの測定を指示されることであってもよい。特定情報要素は、同期信号ブロックのサブキャリアオフセットに関する情報要素（例えば、Ssb-IndexExplicit及び／又はSsb-subcarrierOffset）と、下り物理制御チャネルの構成に関する情報要素（例えば、pdcchConfigSIB1）と、サブキャリア間隔に関する情報要素（例えば、subCarrierSpacingCommon）と、セルへのキャンブオン可能性に関する情報要素（例えば、cellBarred）と、セルのキャリア帯域へのキャンブオン可能性に関する情報要素（例えば、intraFreqReselection）と、の少なくとも一部であってもよい。

10

【0201】

また、特定条件は、ユーザ端末がセルに接続された状態において、上位レイヤによって設定される特定パラメータが特定値であることであってもよい。特定情報要素は、同期信号ブロックのインデックスに関する情報要素（例えば、Ssb-IndexExplicit）の少なくとも一部であってもよい。

20

【0202】

また、特定条件が成立する場合、制御部401は、特定情報要素を、サーチすべき同期信号ブロックの周波数位置（例えば、SSラスタ）に関する情報と、国番号（例えば、MCC）及び／又はネットワーク番号（例えば、MNC）に関する情報と、受信された同期信号ブロックのタイミングに関する情報（例えば、タイミング関連情報、タイミング関連情報の繰り返し、タイミング関連情報の復号に用いられる情報）と、受信された同期信号ブロックの測定に関する情報（例えば、測定関連情報）と、同期信号ブロックの間の擬似コロケーションに関する情報（例えば、QCL関連情報）と、同期信号ブロックの集合の周期に関する情報（例えば、SSバーストセット周期）と、の少なくとも一部として解釈してもよい。

30

【0203】

<ハードウェア構成>

なお、上記実施形態の説明に用いたブロック図は、機能単位のブロックを示している。これらの機能ブロック（構成部）は、ハードウェア及び／又はソフトウェアの任意の組み合わせによって実現される。また、各機能ブロックの実現方法は特に限定されない。すなわち、各機能ブロックは、物理的及び／又は論理的に結合した1つの装置を用いて実現されてもよいし、物理的及び／又は論理的に分離した2つ以上の装置を直接的及び／又は間接的に（例えば、有線及び／又は無線を用いて）接続し、これら複数の装置を用いて実現されてもよい。

40

【0204】

例えば、本発明の一実施形態における無線基地局、ユーザ端末などは、本発明の無線通信方法の処理を行うコンピュータとして機能してもよい。図12は、本発明の一実施形態に係る無線基地局及びユーザ端末のハードウェア構成の一例を示す図である。上述の無線基地局10及びユーザ端末20は、物理的には、プロセッサ1001、メモリ1002、ストレージ1003、通信装置1004、入力装置1005、出力装置1006、バス1007などを含むコンピュータ装置として構成されてもよい。

【0205】

なお、以下の説明では、「装置」という文言は、回路、デバイス、ユニットなどに読み替

50

えることができる。無線基地局 10 及びユーザ端末 20 のハードウェア構成は、図に示した各装置を 1 つ又は複数含むように構成されてもよいし、一部の装置を含まずに構成されてもよい。

【0206】

例えば、プロセッサ 1001 は 1 つだけ図示されているが、複数のプロセッサがあってもよい。また、処理は、1 のプロセッサによって実行されてもよいし、処理が同時に、逐次に、又はその他の手法を用いて、1 以上のプロセッサによって実行されてもよい。なお、プロセッサ 1001 は、1 以上のチップによって実装されてもよい。

【0207】

無線基地局 10 及びユーザ端末 20 における各機能は、例えば、プロセッサ 1001、メモリ 1002 などのハードウェア上に所定のソフトウェア（プログラム）を読み込ませることによって、プロセッサ 1001 が演算を行い、通信装置 1004 を介する通信を制御したり、メモリ 1002 及びストレージ 1003 におけるデータの読み出し及び/又は書き込みを制御したりすることによって実現される。

10

【0208】

プロセッサ 1001 は、例えば、オペレーティングシステムを動作させてコンピュータ全体を制御する。プロセッサ 1001 は、周辺装置とのインターフェース、制御装置、演算装置、レジスタなどを含む中央処理装置（CPU：Central Processing Unit）によって構成されてもよい。例えば、上述のベースバンド信号処理部 104（204）、呼処理部 105 などは、プロセッサ 1001 によって実現されてもよい。

20

【0209】

また、プロセッサ 1001 は、プログラム（プログラムコード）、ソフトウェアモジュール、データなどを、ストレージ 1003 及び/又は通信装置 1004 からメモリ 1002 に読み出し、これらに従って各種の処理を実行する。プログラムとしては、上述の実施形態において説明した動作の少なくとも一部をコンピュータに実行させるプログラムが用いられる。例えば、ユーザ端末 20 の制御部 401 は、メモリ 1002 に格納され、プロセッサ 1001 において動作する制御プログラムによって実現されてもよく、他の機能ブロックについても同様に実現されてもよい。

【0210】

メモリ 1002 は、コンピュータ読み取り可能な記録媒体であり、例えば、ROM（Read Only Memory）、EPROM（Erasable Programmable ROM）、EEPROM（Electrically EPROM）、RAM（Random Access Memory）、その他の適切な記憶媒体の少なくとも 1 つによって構成されてもよい。メモリ 1002 は、レジスタ、キャッシュ、メインメモリ（主記憶装置）などと呼ばれてもよい。メモリ 1002 は、本発明の一実施形態に係る無線通信方法を実施するために実行可能なプログラム（プログラムコード）、ソフトウェアモジュールなどを保存することができる。

30

【0211】

ストレージ 1003 は、コンピュータ読み取り可能な記録媒体であり、例えば、フレキシブルディスク、フロッピー（登録商標）ディスク、光磁気ディスク（例えば、コンパクトディスク（CD-ROM（Compact Disc ROM）など）、デジタル多用途ディスク、Blu-ray（登録商標）ディスク）、リムーバブルディスク、ハードディスクドライブ、スマートカード、フラッシュメモリデバイス（例えば、カード、スティック、キードライブ）、磁気ストライプ、データベース、サーバ、その他の適切な記憶媒体の少なくとも 1 つによって構成されてもよい。ストレージ 1003 は、補助記憶装置と呼ばれてもよい。

40

【0212】

通信装置 1004 は、有線及び/又は無線ネットワークを介してコンピュータ間の通信を行うためのハードウェア（送受信デバイス）であり、例えばネットワークデバイス、ネットワークコントローラ、ネットワークカード、通信モジュールなどともいう。通信装置 1004 は、例えば周波数分割複信（FDD：Frequency Division Duplex）及び/又は時分割複信（TDD：Time Division Duplex）を実現するために、高周波スイッチ、

50

デュプレクサ、フィルタ、周波数シンセサイザなどを含んで構成されてもよい。例えば、上述の送受信アンテナ101(201)、アンプ部102(202)、送受信部103(203)、伝送路インターフェース106などは、通信装置1004によって実現されてもよい。

#### 【0213】

入力装置1005は、外部からの入力を受け付ける入力デバイス(例えば、キーボード、マウス、マイクロフォン、スイッチ、ボタン、センサなど)である。出力装置1006は、外部への出力を実施する出力デバイス(例えば、ディスプレイ、スピーカー、LED(Light Emitting Diode)ランプなど)である。なお、入力装置1005及び出力装置1006は、一体となった構成(例えば、タッチパネル)であってもよい。

10

#### 【0214】

また、プロセッサ1001、メモリ1002などの各装置は、情報を通信するためのバス1007によって接続される。バス1007は、単一のバスを用いて構成されてもよいし、装置間ごとに異なるバスを用いて構成されてもよい。

#### 【0215】

また、無線基地局10及びユーザ端末20は、マイクロプロセッサ、デジタル信号プロセッサ(DSP: Digital Signal Processor)、ASIC(Application Specific Integrated Circuit)、PLD(Programmable Logic Device)、FPGA(Field Programmable Gate Array)などのハードウェアを含んで構成されてもよく、当該ハードウェアを用いて各機能ブロックの一部又は全てが実現されてもよい。例えば、プロセッサ1001は、これらのハードウェアの少なくとも1つを用いて実装されてもよい。

20

#### 【0216】

(変形例)

なお、本明細書において説明した用語及び/又は本明細書の理解に必要な用語については、同一の又は類似する意味を有する用語と置き換えてもよい。例えば、チャンネル及び/又はシンボルは信号(シグナリング)であってもよい。また、信号はメッセージであってもよい。参照信号は、RS(Reference Signal)と略称することもでき、適用される標準によってパイロット(Pilot)、パイロット信号などと呼ばれてもよい。また、コンポーネントキャリア(CC: Component Carrier)は、セル、周波数キャリア、キャリア周波数などと呼ばれてもよい。

30

#### 【0217】

また、無線フレームは、時間領域において1つ又は複数の期間(フレーム)によって構成されてもよい。無線フレームを構成する当該1つ又は複数の各期間(フレーム)は、サブフレームと呼ばれてもよい。さらに、サブフレームは、時間領域において1つ又は複数のスロットによって構成されてもよい。サブフレームは、ニューメロロジーに依存しない固定の時間長(例えば、1ms)であってもよい。

#### 【0218】

さらに、スロットは、時間領域において1つ又は複数のシンボル(OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing)シンボル、SC-FDMA(Single Carrier Frequency Division Multiple Access)シンボルなど)によって構成されてもよい。また、スロットは、ニューメロロジーに基づく時間単位であってもよい。また、スロットは、複数のミニスロットを含んでもよい。各ミニスロットは、時間領域において1つ又は複数のシンボルによって構成されてもよい。また、ミニスロットは、サブスロットと呼ばれてもよい。

40

#### 【0219】

無線フレーム、サブフレーム、スロット、ミニスロット及びシンボルは、いずれも信号を送送する際の時間単位を表す。無線フレーム、サブフレーム、スロット、ミニスロット及びシンボルは、それぞれに対応する別の呼称が用いられてもよい。例えば、1サブフレームは送信時間間隔(TTI: Transmission Time Interval)と呼ばれてもよいし、複数の連続したサブフレームがTTIと呼ばれてよいし、1スロット又は1ミニスロットが

50

TTIと呼ばれてもよい。つまり、サブフレーム及び/又はTTIは、既存のLTEにおけるサブフレーム(1ms)であってもよいし、1msより短い期間(例えば、1-13シンボル)であってもよいし、1msより長い期間であってもよい。なお、TTIを表す単位は、サブフレームではなくスロット、ミニスロットなどと呼ばれてもよい。

【0220】

ここで、TTIは、例えば、無線通信におけるスケジューリングの最小時間単位のことをいう。例えば、LTEシステムでは、無線基地局が各ユーザ端末に対して、無線リソース(各ユーザ端末において使用することが可能な周波数帯域幅、送信電力など)を、TTI単位で割り当てるスケジューリングを行う。なお、TTIの定義はこれに限られない。

【0221】

TTIは、チャンネル符号化されたデータパケット(トランスポートブロック)、コードブロック、及び/又はコードワードの送信時間単位であってもよいし、スケジューリング、リンクアダプテーションなどの処理単位となってもよい。なお、TTIが与えられたとき、実際にトランスポートブロック、コードブロック、及び/又はコードワードがマッピングされる時間区間(例えば、シンボル数)は、当該TTIよりも短くてもよい。

【0222】

なお、1スロット又は1ミニスロットがTTIと呼ばれる場合、1以上のTTI(すなわち、1以上のスロット又は1以上のミニスロット)が、スケジューリングの最小時間単位となってもよい。また、当該スケジューリングの最小時間単位を構成するスロット数(ミニスロット数)は制御されてもよい。

【0223】

1msの時間長を有するTTIは、通常TTI(LTE Rel. 8-12におけるTTI)、ノーマルTTI、ロングTTI、通常サブフレーム、ノーマルサブフレーム、又はロングサブフレームなどと呼ばれてもよい。通常TTIより短いTTIは、短縮TTI、ショートTTI、部分TTI(partial又はfractional TTI)、短縮サブフレーム、ショートサブフレーム、ミニスロット、又は、サブスロットなどと呼ばれてもよい。

【0224】

なお、ロングTTI(例えば、通常TTI、サブフレームなど)は、1msを超える時間長を有するTTIで読み替えてもよいし、ショートTTI(例えば、短縮TTIなど)は、ロングTTIのTTI長未満かつ1ms以上のTTI長を有するTTIで読み替えてもよい。

【0225】

リソースブロック(RB: Resource Block)は、時間領域及び周波数領域のリソース割当単位であり、周波数領域において、1つ又は複数個の連続した副搬送波(サブキャリア(subcarrier))を含んでもよい。また、RBは、時間領域において、1つ又は複数個のシンボルを含んでもよく、1スロット、1ミニスロット、1サブフレーム又は1TTIの長さであってもよい。1TTI、1サブフレームは、それぞれ1つ又は複数のリソースブロックによって構成されてもよい。なお、1つ又は複数のRBは、物理リソースブロック(PRB: Physical RB)、サブキャリアグループ(SCG: Sub-Carrier Group)、リソースエレメントグループ(REG: Resource Element Group)、PRBペア、RBペアなどと呼ばれてもよい。

【0226】

また、リソースブロックは、1つ又は複数のリソースエレメント(RE: Resource Element)によって構成されてもよい。例えば、1REは、1サブキャリア及び1シンボルの無線リソース領域であってもよい。

【0227】

なお、上述した無線フレーム、サブフレーム、スロット、ミニスロット及びシンボルなどの構造は例示に過ぎない。例えば、無線フレームに含まれるサブフレームの数、サブフレーム又は無線フレームあたりのスロットの数、スロット内に含まれるミニスロットの数、スロット又はミニスロットに含まれるシンボル及びRBの数、RBに含まれるサブキャリ

10

20

30

40

50

アの数、並びにTTI内のシンボル数、シンボル長、サイクリックプレフィックス(CP: Cyclic Prefix)長などの構成は、様々に変更することができる。

【0228】

また、本明細書において説明した情報、パラメータなどは、絶対値を用いて表されてもよいし、所定の値からの相対値を用いて表されてもよいし、対応する別の情報を用いて表されてもよい。例えば、無線リソースは、所定のインデックスによって指示されてもよい。

【0229】

本明細書においてパラメータなどに使用する名称は、いかなる点においても限定的な名称ではない。例えば、様々なチャネル(P U C C H (Physical Uplink Control Channel)、P D C C H (Physical Downlink Control Channel)など)及び情報要素は、あらゆる好適な名称によって識別できるので、これらの様々なチャネル及び情報要素に割り当てている様々な名称は、いかなる点においても限定的な名称ではない。

10

【0230】

本明細書において説明した情報、信号などは、様々な異なる技術のいずれかを使用して表されてもよい。例えば、上記の説明全体に渡って言及され得るデータ、命令、コマンド、情報、信号、ビット、シンボル、チップなどは、電圧、電流、電磁波、磁界若しくは磁性粒子、光場若しくは光子、又はこれらの任意の組み合わせによって表されてもよい。

【0231】

また、情報、信号などは、上位レイヤから下位レイヤ、及び/又は下位レイヤから上位レイヤへ出力され得る。情報、信号などは、複数のネットワークノードを介して入出力されてもよい。

20

【0232】

入出力された情報、信号などは、特定の場所(例えば、メモリ)に保存されてもよいし、管理テーブルを用いて管理してもよい。入出力される情報、信号などは、上書き、更新又は追記をされ得る。出力された情報、信号などは、削除されてもよい。入力された情報、信号などは、他の装置へ送信されてもよい。

【0233】

情報の通知は、本明細書において説明した態様/実施形態に限られず、他の方法を用いて行われてもよい。例えば、情報の通知は、物理レイヤシグナリング(例えば、下り制御情報(D C I : Downlink Control Information)、上り制御情報(U C I : Uplink Control Information))、上位レイヤシグナリング(例えば、R R C (Radio Resource Control)シグナリング、ブロードキャスト情報(マスタ情報ブロック(M I B : Master Information Block)、システム情報ブロック(S I B : System Information Block)など)、M A C (Medium Access Control)シグナリング)、その他の信号又はこれらの組み合わせによって実施されてもよい。

30

【0234】

なお、物理レイヤシグナリングは、L 1 / L 2 (Layer 1 / Layer 2)制御情報(L 1 / L 2制御信号)、L 1制御情報(L 1制御信号)などと呼ばれてもよい。また、R R Cシグナリングは、R R Cメッセージと呼ばれてもよく、例えば、R R C接続セットアップ(R R CConnectionSetup)メッセージ、R R C接続再構成(R R CConnectionReconfiguration)メッセージなどであってもよい。また、M A Cシグナリングは、例えば、M A C制御要素(M A C C E (Control Element))を用いて通知されてもよい。

40

【0235】

また、所定の情報の通知(例えば、「Xであること」の通知)は、明示的な通知に限られず、暗示的に(例えば、当該所定の情報の通知を行わないことによって又は別の情報の通知によって)行われてもよい。

【0236】

判定は、1ビットで表される値(0か1か)によって行われてもよいし、真(true)又は偽(false)で表される真偽値(boolean)によって行われてもよいし、数値の比較(例えば、所定の値との比較)によって行われてもよい。

50

## 【0237】

ソフトウェアは、ソフトウェア、ファームウェア、ミドルウェア、マイクロコード、ハードウェア記述言語と呼ばれるか、他の名称で呼ばれるかを問わず、命令、命令セット、コード、コードセグメント、プログラムコード、プログラム、サブプログラム、ソフトウェアモジュール、アプリケーション、ソフトウェアアプリケーション、ソフトウェアパッケージ、ルーチン、サブルーチン、オブジェクト、実行可能ファイル、実行スレッド、手順、機能などを意味するよう広く解釈されるべきである。

## 【0238】

また、ソフトウェア、命令、情報などは、伝送媒体を介して送受信されてもよい。例えば、ソフトウェアが、有線技術（同軸ケーブル、光ファイバケーブル、ツイストペア、デジタル加入者回線（DSL：Digital Subscriber Line）など）及び/又は無線技術（赤外線、マイクロ波など）を使用してウェブサイト、サーバ、又は他のリモートソースから送信される場合、これらの有線技術及び/又は無線技術は、伝送媒体の定義内に含まれる。

10

## 【0239】

本明細書において使用する「システム」及び「ネットワーク」という用語は、互換的に使用される。

## 【0240】

本明細書においては、「基地局（BS：Base Station）」、「無線基地局」、「eNB」、「gNB」、「セル」、「セクタ」、「セルグループ」、「キャリア」及び「コンポーネントキャリア」という用語は、互換的に使用され得る。基地局は、固定局（fixed station）、NodeB、eNodeB（eNB）、アクセスポイント（access point）、送信ポイント、受信ポイント、フェムトセル、スモールセルなどの用語で呼ばれる場合もある。

20

## 【0241】

基地局は、1つ又は複数（例えば、3つ）のセル（セクタとも呼ばれる）を収容することができる。基地局が複数のセルを収容する場合、基地局のカバレッジエリア全体は複数のより小さいエリアに区分でき、各々のより小さいエリアは、基地局サブシステム（例えば、屋内用の小型基地局（RRH：Remote Radio Head））によって通信サービスを提供することもできる。「セル」又は「セクタ」という用語は、このカバレッジにおいて通信サービスを行う基地局及び/又は基地局サブシステムのカバレッジエリアの一部又は全体を指す。

30

## 【0242】

本明細書においては、「移動局（MS：Mobile Station）」、「ユーザ端末（user terminal）」、「ユーザ装置（UE：User Equipment）」及び「端末」という用語は、互換的に使用され得る。基地局は、固定局（fixed station）、NodeB、eNodeB（eNB）、アクセスポイント（access point）、送信ポイント、受信ポイント、フェムトセル、スモールセルなどの用語で呼ばれる場合もある。

## 【0243】

移動局は、当業者によって、加入者局、モバイルユニット、加入者ユニット、ワイヤレスユニット、リモートユニット、モバイルデバイス、ワイヤレスデバイス、ワイヤレス通信デバイス、リモートデバイス、モバイル加入者局、アクセス端末、モバイル端末、ワイヤレス端末、リモート端末、ハンドセット、ユーザエージェント、モバイルクライアント、クライアント又はいくつかの他の適切な用語で呼ばれる場合もある。

40

## 【0244】

また、本明細書における無線基地局は、ユーザ端末で読み替えてもよい。例えば、無線基地局及びユーザ端末間の通信を、複数のユーザ端末間（D2D：Device-to-Device）の通信に置き換えた構成について、本発明の各態様/実施形態を適用してもよい。この場合、上述の無線基地局10が有する機能をユーザ端末20が有する構成としてもよい。また、「上り」及び「下り」などの文言は、「サイド」と読み替えられてもよい。例えば、上りチャンネルは、サイドチャンネルと読み替えられてもよい。

50

## 【0245】

同様に、本明細書におけるユーザ端末は、無線基地局で読み替えてもよい。この場合、上述のユーザ端末20が有する機能を無線基地局10が有する構成としてもよい。

## 【0246】

本明細書において、基地局によって行われるとした動作は、場合によってはその上位ノード(upper node)によって行われることもある。基地局を有する1つ又は複数のネットワークノード(network nodes)を含むネットワークにおいて、端末との通信のために行われる様々な動作は、基地局、基地局以外の1つ以上のネットワークノード(例えば、MME(Mobility Management Entity)、S-GW(Serving-Gateway)などが考えられるが、これらに限られない)又はこれらの組み合わせによって行われ得ることは明らかである。

10

## 【0247】

本明細書において説明した各態様/実施形態は単独で用いてもよいし、組み合わせて用いてもよいし、実行に伴って切り替えて用いてもよい。また、本明細書で説明した各態様/実施形態の処理手順、シーケンス、フローチャートなどは、矛盾の無い限り、順序を入れ替えてもよい。例えば、本明細書で説明した方法については、例示的な順序で様々なステップの要素を提示しており、提示した特定の順序に限定されない。

## 【0248】

本明細書において説明した各態様/実施形態は、LTE(Long Term Evolution)、LTE-A(LTE-Advanced)、LTE-B(LTE-Beyond)、SUPER 3G、IMT-Advanced、4G(4th generation mobile communication system)、5G(5th generation mobile communication system)、FRA(Future Radio Access)、New-RAT(Radio Access Technology)、NR(New Radio)、NX(New radio access)、FX(Future generation radio access)、GSM(登録商標)(Global System for Mobile communications)、CDMA2000、UMB(Ultra Mobile Broadband)、IEEE 802.11(Wi-Fi(登録商標))、IEEE 802.16(WiMAX(登録商標))、IEEE 802.20、UWB(Ultra-WideBand)、Bluetooth(登録商標)、その他の適切な無線通信方法を利用するシステム及び/又はこれらに基づいて拡張された次世代システムに適用されてもよい。

20

30

## 【0249】

本明細書において使用する「に基づいて」という記載は、別段に明記されていない限り、「のみに基づいて」を意味しない。言い換えれば、「に基づいて」という記載は、「のみに基づいて」と「に少なくとも基づいて」の両方を意味する。

## 【0250】

本明細書において使用する「第1の」、「第2の」などの呼称を使用した要素へのいかなる参照も、それらの要素の量又は順序を全般的に限定しない。これらの呼称は、2つ以上の要素間を区別する便利な方法として本明細書において使用され得る。したがって、第1及び第2の要素の参照は、2つの要素のみが採用され得ること又は何らかの形で第1の要素が第2の要素に先行しなければならないことを意味しない。

40

## 【0251】

本明細書において使用する「判断(決定)(determining)」という用語は、多種多様な動作を包含する場合がある。例えば、「判断(決定)」は、計算(calculating)、算出(computing)、処理(processing)、導出(deriving)、調査(investigating)、探索(looking up)(例えば、テーブル、データベース又は別のデータ構造での探索)、確認(ascertaining)などを「判断(決定)」することであるとみなされてもよい。また、「判断(決定)」は、受信(receiving)(例えば、情報を受信すること)、送信(transmitting)(例えば、情報を送信すること)、入力(input)、出力(output)、アクセス(accessing)(例えば、メモリ中のデータにアクセスすること)などを「判断(決定)」することであるとみなされてもよい。また、「判断(決定)」は、解決(resolvi

50

ng)、選択(selecting)、選定(choosing)、確立(establishing)、比較(comparing)などを「判断(決定)」することであるとみなされてもよい。つまり、「判断(決定)」は、何らかの動作を「判断(決定)」することであるとみなされてもよい。

【0252】

本明細書において使用する「接続された(connected)」、「結合された(coupled)」という用語、又はこれらのあらゆる変形は、2又はそれ以上の要素間の直接的又は間接的なあらゆる接続又は結合を意味し、互いに「接続」又は「結合」された2つの要素間に1又はそれ以上の中間要素が存在することを含むことができる。要素間の結合又は接続は、物理的であっても、論理的であっても、あるいはこれらの組み合わせであってもよい。例えば、「接続」は「アクセス」と読み替えられてもよい。

10

【0253】

本明細書において、2つの要素が接続される場合、1又はそれ以上の電線、ケーブル及び/又はプリント電気接続を用いて、並びにいくつかの非限定的かつ非包括的な例として、無線周波数領域、マイクロ波領域及び/又は光(可視及び不可視の両方)領域の波長を有する電磁エネルギーなどを用いて、互いに「接続」又は「結合」されることができると考えることができる。

【0254】

本明細書において、「AとBが異なる」という用語は、「AとBが互いに異なる」ことを意味してもよい。「離れる」、「結合される」などの用語も同様に解釈されてもよい。

【0255】

本明細書又は請求の範囲において、「含む(including)」、「含んでいる(comprising)」、及びそれらの変形が使用されている場合、これらの用語は、用語「備える」と同様に、包括的であることが意図される。さらに、本明細書あるいは請求の範囲において使用されている用語「又は(or)」は、排他的論理和ではないことが意図される。

20

【0256】

以上、本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されないということは明らかである。本発明は、請求の範囲の記載に基づいて定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とし、本発明に対して何ら制限的な意味をもたらさない。

30

40

50

【図面】  
【図 1】

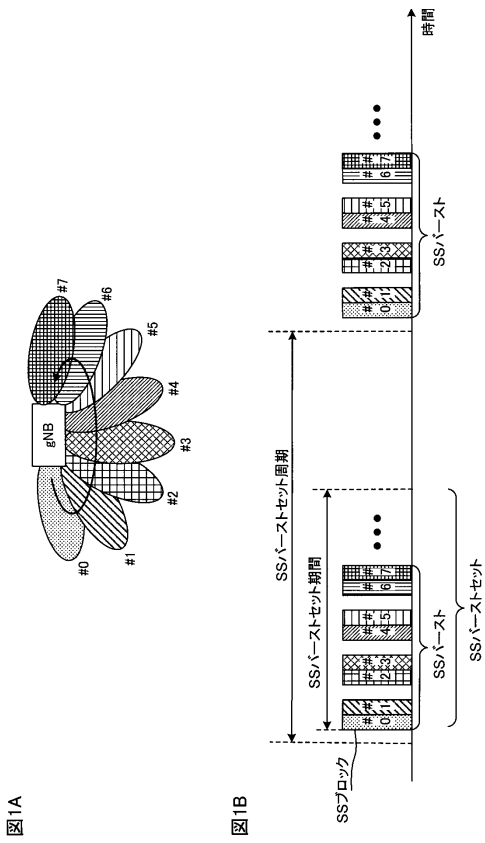
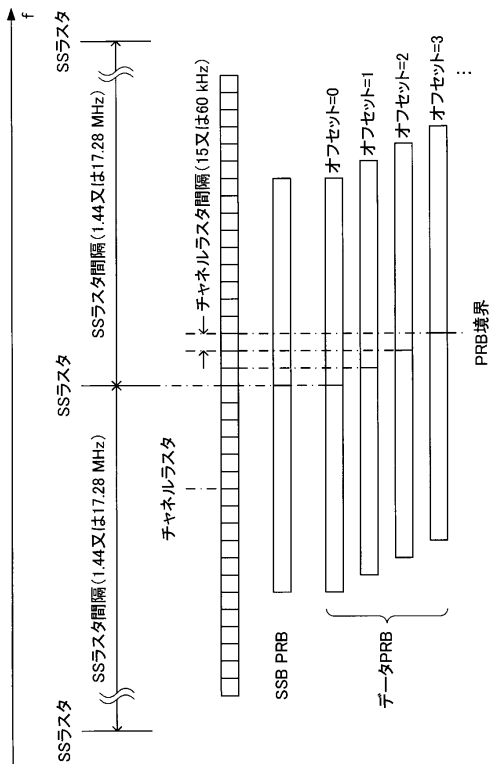


図 1A

図 1B

【図 3】



【図 2】

情報要素	ビットサイズ
SystemFrameNumber	6
subCarrierSpacingCommon	1
Ssb-subcarrierOffset	4
Dmrs-TypeA-Position	1
pdccchConfigSIB1	8
cellBarred	1
intraFreqReselection	1
spare	2
4 LSBs of SystemFrameNumber	4
Ssb-IndexExplicit	3
Half-frame-index	1
CRC	24
合計	56

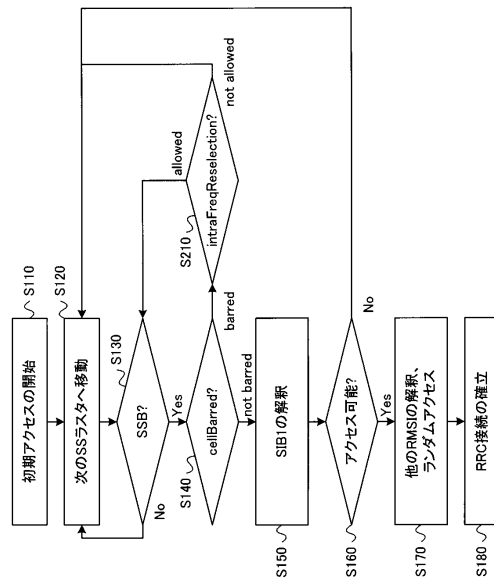
上位レイヤから提供される

物理レイヤにおいて生成される

10

20

【図 4】



30

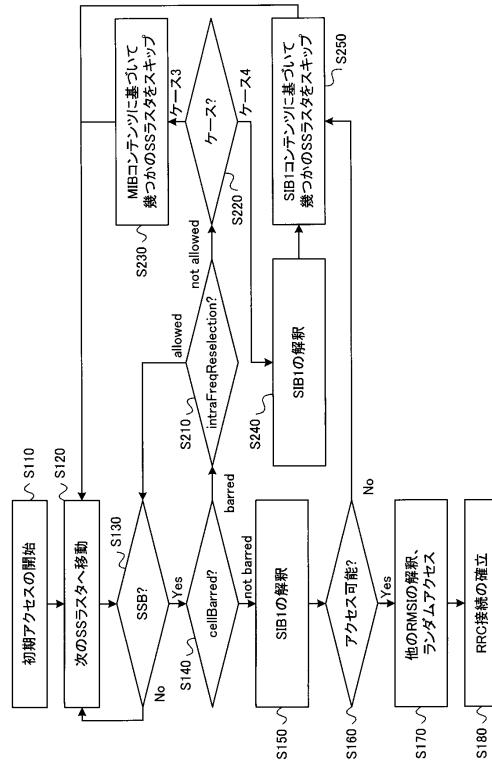
40

50

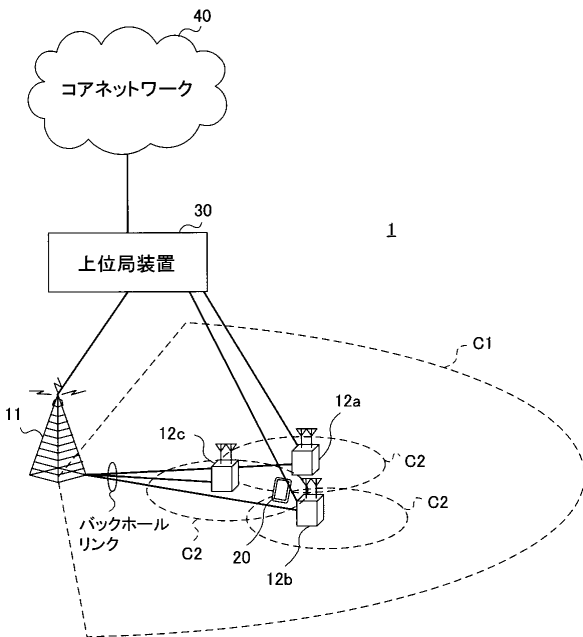
【図5】

	cellBarred/intraFreqReselection	RMSIの有無	初期アクセス可能性	次のUE動作
ケース1	notBarred/allowed	有	可	セル/キャリアにアクセス
ケース2	notBarred/allowed	有	不可	次のSSラスタをサーチ
ケース3	Barred/not allowed	無	不可	次のSSラスタをサーチ
ケース4	Barred/not allowed	有	不可	次のSSラスタをサーチ

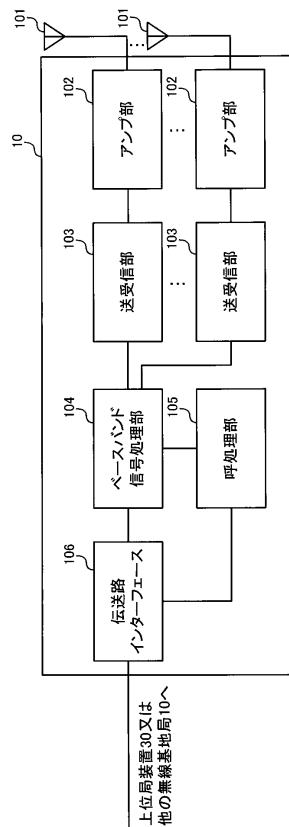
【図6】



【図7】



【図8】



上位局装置30又は他の無線基地局10へ

10

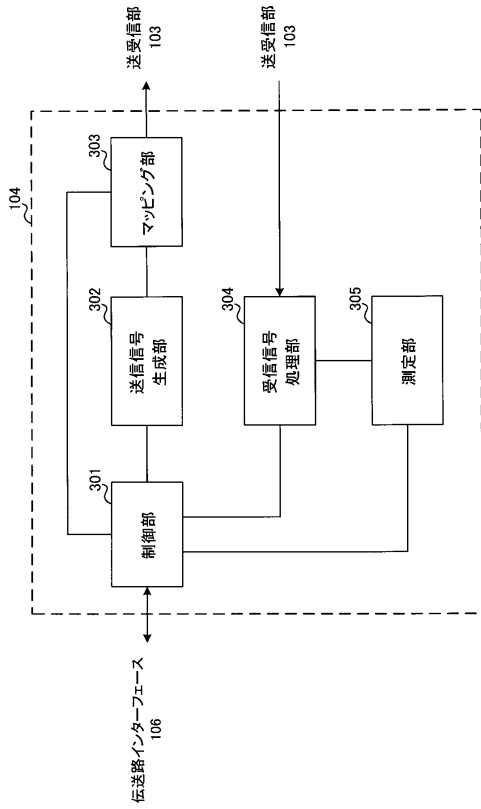
20

30

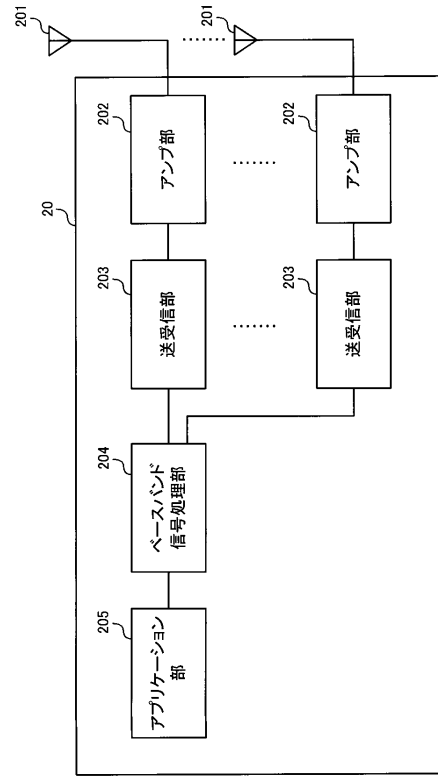
40

50

【図 9】



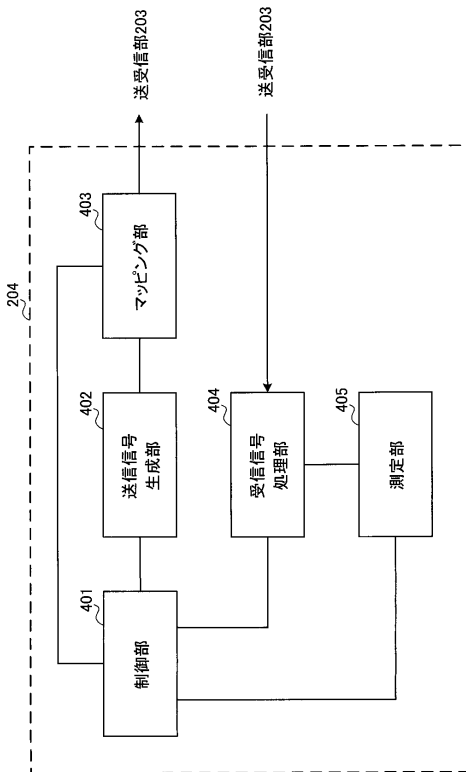
【図 10】



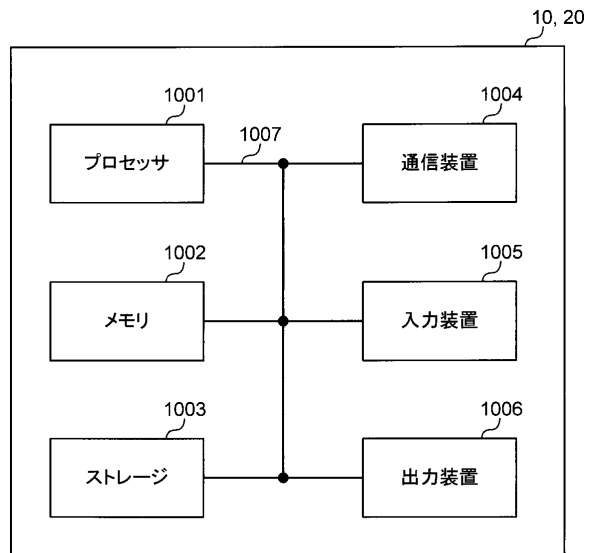
10

20

【図 11】



【図 12】



30

40

50

---

フロントページの続き

- (56)参考文献      Qualcomm , WF on RMSI presence flag[online] , 3GPP TSG RAN WG1 #91 , 3GPP , 2017年12月01日 , R1-1721684 , 検索日[2022.01.28],Internet URL:[http://www.3gpp.org/ftp/tsg\\_ran/WG1\\_RL1/TSGR1\\_91/Docs/R1-1721684.zip](http://www.3gpp.org/ftp/tsg_ran/WG1_RL1/TSGR1_91/Docs/R1-1721684.zip)  
Ericsson , [99bis#19][NR] L1 parameters in RRC Email Discussion Summary[online] , 3GPP TSG RAN WG2 #100 , 3GPP , 2017年12月01日 , R2-1713430 , 検索日[2022.01.28],Internet URL:[http://www.3gpp.org/ftp/tsg\\_ran/WG2\\_RL2/TSGR2\\_100/Docs/R2-1713430.zip](http://www.3gpp.org/ftp/tsg_ran/WG2_RL2/TSGR2_100/Docs/R2-1713430.zip)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B名)

H 0 4 B    7 / 2 4 - 7 / 2 6  
H 0 4 W    4 / 0 0 - 9 9 / 0 0  
3 G P P T S G R A N W G 1 - 4  
S A    W G 1 - 4  
C T    W G 1 , 4